

籠城日誌

ろうじょうにっし

明治十年

二月三日ノ夜何人なんびとタルヲ不知しらず鹿兒島えんしょうこしよぞう焰焔庫所蔵

ノ彈藥ヲ悉皆強奪あまねくみなごうだつシタリト

四日ノ夜ニ至リ四方喧囂雜沓けんごうざつたう或ハ兵器ヲ携持けいじ

スル者又ハ巡查等左走右奔さそううほんス其事由そのじゆうタル鹿兒

縣ヨリ東京ニ出仕スル某ノ術策ニヨリ同縣人

ニテ旧警視廳警部或ハ書生等ニ陽ニ帰省ヲ名

トシ陰ニ間者トナシ多數入込シメタル趣發覺

スルヲ以テ巡查探索急ニ數名ヲ縛シ之ヲ料スただす

果シテ其ノ依頼ニテ西郷ヲ始メ他ノ英名アル

モノヲ刺殺スルノ企ナルヲ吐露とろシタリ是ニ於

テ士族等之ヲ聞大ニ忿激ふんげきシ奴輩どはい討ツヘシト俄が

然私學校ニ屯集ぜん とんしゆうスル者五六萬人餘ニ及ヒタリ

ト

陸軍大将西郷隆盛さいごうたかもり 陸軍少将桐野利秋きりのとしあき 陸軍少将

篠原国幹しのはらくにもと 等モ不審ヲ抱キ何故ニ刺客ヲ出サレ

タルヤ政府へ尋問ノ為メ出京セントシ大山鹿

児島縣令へ旧兵隊ノ者共随行多數出立ニ付人

民動揺セサル様保護ノ義ヲ依頼シタリ大山縣

令聞届ノ上其旨報告ノ為メ各鎮臺ちんだい 各府縣へ專

使トシテ二月八日ヨリ官員ヲ出サルト

二月三日蒸気船三國丸鹿兒島湊へ伊集院郡いじゅういんごおり 平

擔任薩州製造ノ銃器等受取トシテ東京ヨリ来

着シタリ私學校生徒之レヲ察知シ器械庫ヲ警

固シタルニ付該船ハ直チニ帰帆セリ然ルニ其

器械庫ニ烧キ拂ヒノ仕掛ケアルヲ生徒等ガ見

出シ忽チ疑惑ヲ生シ急ニ國內へ觸レテ郵便ヲ
止メ口々ヲ固メ不審ノ者ヲ探偵シ教導職大津
鐵念他一名及ヒ黒江某山下某高木某野間口某
園田某等數十名ヲ捕縛シ某所持品ヲ査檢スル
ニ書翰數通アリ文中蒸氣廻漕及ヒ器械庫焼拂
ヒノ義等ヲ記載シ且ツ其他ノ百事明白スルニ
ヨリ之ヲ確證トシ其非理ヲ糾サン為メ兵器ヲ
携へ東京ニ逼^{せま}ラント議定シタリト
二月五日ヨリ守備ヲ嚴ニシ商人体ノ者ニ至ル
マテ一切國境ヲ入レズ縣下ノ者ハ他出ヲ許サ
ス大口郷出水郷境目間道等マデ刀劍ヲ帶ヒ銃
器ヲ携フ者五六名完出張シ通行出船等ヲ制禁
ス

同日午前第十時士族中へ兵器ヲ用意シズボン
マンテルニテ急速宿元出立スヘキ旨布達シタ
リト

同日夜鹿兒島ヨリ米ノ津迄八小隊出張ノ上戸
毎ニ米貳斗ヲ賦シ出水郷ハ戸毎ニ梅干漬物等
ヲ出サシメタリ而シテ平民ノ者共等ハ梅干草
鞋ヲ名主ヨリ取寄セサセ且ツ麓ニ於テ十五歳
ヨリ六十歳マデノ者ヲ尽ク米搗夫方ニ喚ヒ出
シ其他追々百般ノ軍備ヲナセリト
私學校ノ内ニ教導團ト書シタル所ヲ本營ト改
メ陸軍大将西郷隆盛日々出頭スト
兵数ハ凡ソ貳万四五人ヨリ下ラズ而シテ出兵
ノ人数ハ銃器等充分調フタリト

夫方ハ軍士百名ニ付五十名ノ割合ニテ一名ニ
金拾円宛與ヘ雨具其他必用ノ品物購求スベキ
旨達タリト

鹿児島市中ヨリ軍費トシテ出金スル者及ヒ武
器ヲ指出スモノアリト

軍士ノ軍用金ハ一人十円宛ノ割賦ナリト

鹿児島縣ヘ入込ミタル眞宗坊主ハ尽ク捕縛シ
タリト

内務省御用掛山田武雄渡邊重石丸鹿児島ヨリ
ノ帰途米津通行ノ際番兵ニ取卷ラレ縣廳ノ指
令ニ付通行ヲ禁スルトテ巡查本局ヘ拘引セラ
レタリ依テ同人ヨリ何故ニ斯ノ處業ヲナスヤ
ト詰問シタルニ僧徒ノ者正教院ノ許可ヲ不經

縣内へ入込ミ人民ヲ眩惑スルニヨリ正教院ノ
依頼ヲ受ケ嚴重取締ヲナスト答タリ
熊本鎮臺ノ医官某薩州へ帰省セントシ米津ニ
至ルニ番兵アリ通行ヲ止ルニ付其次第ヲ問フ
ニ即今警戒ノ義アリト答フ依テ重テ警戒ノ旨
趣ヲ問フニ近口海賊多ク天草沖ニテ或ル商船
ノ荷物ヲ略奪シ又津畑邊ニテ盜取スル者アル
ニ付嚴重ニスト答フルニヨリ自分ハ鹿児島ノ
者ナリ支障アルマジト云フタリ然ルニ陸軍医
官ノ證憑しょうひょうナケレバ決シテ通行ナラズトテ已ニ
捕縛スルノ勢ニヨリ其俣引返シタリト
長崎裁判所松本七等判事外三名鹿児島へ往カ
ントシ薩摩國境ニ至ルニ番兵アリ入ルヲ許サ

ス終ニ引返シタリ

私學校へ入ル者ハ一切帰宿ヲ許サス其帰宿ス
ル者ハ仙臺大橋ノ左右へ番兵ヲ張リテ之ヲ押
へ校則ノ如キハ親子兄弟タリ共因ヨリ告クル
ヲ禁シ惣人数ハ大凡八萬人計モ有之其勢猖獗しょうけつ
ニシテ途上之レニ行逢フモノハ皆遠方ヨリ傍
ラニ避ケ通行スト

肥前土佐及ヒ當縣ヨリモ数名鹿兒島へ入込ミ
タリト

鹿兒島今藤宏ノ弟勇西郷大将等ノ随行ヲ希望
シ左ノ願書ヲ出タシ直チニ聞届ケラレタリト
敢テ書面ヲ以テ申上候私儀略々字ヲ識ルノ
訳ニヨリ謬テ諸公ノ知ヲ受ケ教員ニ相加リ

一毫ノ補益ナキハ素ヨリ知ル所ナレ共一旦
緩急ノ節似合ノ一技ヲ奏スルノ機會今日ニ
在リト奉存候間願クハ一技ノ長ヲ棄給ハス
區々ノ微志ヲ御洞察之レ有リ似合ノ末役ニ
相備ハリ度此段申上候也

明治十年二月六日 今 藤 勇

西郷隆盛殿

私學校御中

私學校ハ逐日盛大ニシテ粉骨尽忠ハ此時ニ在
リトテ頻リニ入校ヲ志願シ蚩々ちちノ愚民等モ此
際ノ出兵ニ漏洩セハ他日ノ面目ヲ失ストテ出
兵ヲ願フト

鹿兒島藥庫へ乱妨セシ者ハ縣廳ニテ尽ク取押

へ事情具陳ノ為メ同縣元大属渋谷某及ヒ橋某
ノ兩名俄カニ出京シタリト

出兵ハ二月十六日迄ノ内ニハ愈発程ノ筈ナリ
ト

右鹿兒島縣形勢探偵ノ顛末委細電報及ヒ郵便
ヲ以テ時々其筋々へ上申ニ及ヒタリ

二月十一日鹿兒島縣形勢愈切迫ニテ数百人打
揃ヒ已ニ国境ヲ押シ出サントスル勢ヒニ付若
シ兵器ヲ携へ縣内へ押出セハ鎮臺へモ協議シ
尚巡查ハ勿論有志ノ者ヲ募リ兵器ヲ持タセ臨
機處分シ宜シキヤ電報ヲ以テ内務卿へ伺フタ
リ而シテ即日亦電報ヲ以テ左ノ通御指令アリ

電報承知セリ士族ニ兵器ヲ持タスルコトハ

ナルベク見合セ都ヘテ鎮臺ヘ協議シ止ヲ得
サル節ハ更ニ申請スヘシ巡查二百名昨日出
帆一兩日中ニハ着スヘシ尚時々報知ヲ待ツ
是ヨリ先キ二月八日ニ於テ縣下人心未タ穩カ
ナラス且ツ隣縣ノ風聞モ有之旁一時取締ノ為
メ巡查百名警部引連レ臨時出張アリタキ旨電
報ヲ以テ川路大警視ヘ請求シタリ依テ翌九日
左ノ通電報アリ

神足勘十郎始メ警部巡查二百余名其地ヘ向
ケ明日出帆ノ筈ナリ

二月九日品川大書記官明日出立其地ヘ赴クト
電報ニテ内務省ヨリ達アリ

二月十二日河村海軍大輔林内務小輔ヨリ尾道

局発ス電報ニテ左ノ如ク達アリ

薩摩鎮定ナリガタク尽ク兵器ヲ持チ玉込ヲ

シテ我船ニ乗リ入ラントス之レニテ承知ア

レ肥後ニテ陸地ヲ上ルトノコト右ノ挙動ニ

テハ其名義トスル處立チ難ク我レ去ル九日

薩摩港ヲ出帆ス東京大山大坂山縣へモ報告

セリ右ノ趣谷少将へ通スヘシ

鹿兒島ヨリ海陸押シ出スノ風聞アリ而シテ九

日以来絶へテ郵便来ラス

二月十一日一万人程鹿兒島米ノ津へ出兵ノ積

リニテ宿ヲ手配スル處軍議変シテ鹿兒島へ向

ケ出水ヨリ千五百人出兵スト云フ風聞アリ

鹿兒島ヨリノ郵便九日以来着セサル所十三日

ニ至リ始メテ着セリ右郵便状ノ中同縣米ノ津
郵便局ノ附箋アリ云フ野間ノ原トイフ所ニ農
武士大勢集リ郵便ヲ開封スルニヨリ發達ヲ見
合セタリ然ルニ野武士等昨夜退散セリト

二月九日鹿兒島出立十四日歸縣シタル者アリ
其言ニ云フ二月四日以来警視局警部巡查ノ内
歸省或ハ免職ニテ歸縣シタルモノ等二十九名
程各所ニテ捕縛シ西郷桐野篠原等私學校ニ出
會シ專ラ上京ノ事ヲ議スルト

二月十五日河村海軍大輔ヨリ神戸局發電報ニ
テ左ノ通達アリ

鹿兒島人船ヨリ突出スル勢ヒ相見ヘ軍艦二
艘伊藤少將指揮シ当縣ヘ向ケ今日正午ニ着

艦スル積リ海上警備ハ御懸念ナキ様御承知

アルヘシ

二月十二日出立ニテ鹿児島ヨリ帰縣シタル巡
査ノ探偵ニハ鹿児島人ハ海路ニ出デス総テ陸
路ニ出ツルト云フ右ハ甲鐵艦ヲ恐ルヽカ故ナ
リト又鹿児島ニテ兵隊ヲ組ムヲ見タリ人員凡
ソ四万七八千人モアリ帰途大口邊迄人民へ米
ノ白ラゲヲ申付ケタリトイウ

二月十五日海陸二万五千人一應鹿児島ニ集リ
隊伍ヲ改編シ二月十五日ヲ以テ愈出兵ノ風聞
アリ

二月十六日熊本電信局保護ニ注意スヘキ様前
島内務小輔ヨリ電報ヲ以テ達アリ

二月十六日午後第六時警視局ヨリ出張ノ巡查
博多へ着十八日午後熊本着ノ筈ナル旨神足一
等大警部ヨリ電報アリ

二月十七日鹿児島縣人数水俣人吉二道へ千人
ツゝ押シ出ス様子ニテ既ニ水俣へ宿取ノ者十
名餘昨日着タリ依テ兵器所持ノ上ハ一應談判
シ強テ通行セハ鎮臺へ協議シ臨機處分ノ積リ
ニ付政府ニ於テモ至急御着手アリタキ旨内務
卿へ上申セリ

同日鹿児島縣人数兵器ヲ持チ縣下へ押シ出ス
ニ付縣官指出シ一應々接指留ル積リナリ依テ
至急御指令アリタキ旨内務卿へ上申セリ即日
内務卿ヨリノ御指令左ノ如シ

鹿兒島人員兵器を持チ押シ出ス趣承知セリ
速カニ鎮台ニ報シ臨機ノ處分スヘシ

二月十五日御用有之上京ノ義ヲ桑原七等出仕
へ申達同人即夜出立セリ

二月十八日

鹿兒島縣人数愈我カ縣内へ押シ出シタル旨水
俣詰警部ヨリ報告セリ依テ一等属近藤幸止四
等属横田棄七等属松村秀眞持永義方ヲシテ應
接ノ為メ八代迄指出シタリ其達書左ノ如シ

別紙ノ大意ヲ以テ應答可致候事
いたすべくせうろう

明治十年二月十八日

別紙

今回諸子上京ト號シ道ヲ本縣ニ取テ出ント

ス敬明未タ其事由ヲ審ニセスト雖モ其形貌
ヲ觀ル頗ル怪ムニ足ルモノ有リ夫レ国家ニ
法律アルハ諸子ノ固ヨリ識知スル所ナリ蓋
シ之ヲ施スハ政府ノ權利ニシテ之ヲ守ルハ
人民ノ義務也若シ已ムヲ得サルノ情由アリ
直ニ官ニ訴ント欲セハ宜シク自ラ恭順シ大
義ノ在ル所名分ノ存スル所誠意以テ之ヲ訴
フレハ官何ソ之ヲ聴サルノ理アラン哉何ソ
又猥^{みだ}リニ凶器ヲ携ヘ多数ノ人員ヲ率ヒ無智
ノ人民ヲ動揺シ縣治^{けんじ}ヲ妨クルニ至ン如シ夫
レ如此^{かく_レし_んん}ハ縦令^{た_とい}ヒ名分ノ其間ニ存スルモノ有
ト雖モ其形貌^{けいぼう}ニ於ル実ニ官法ノ容レサル所
敬明ニ於テ決シテ之ヲ許ス能ハス若シ強テ

其意ヲ遂ント欲スルカ如キハ官自ラ別ニ處
スル所アラン諸子之ヲ了セヨ

同夜一等属近藤幸止等鹿兒島縣人数宿配惣轄
同縣士族河野四郎左エ門宮内喜一郎岩下次エ
門ノ三名萩原ニ泊スルニ付其宿ニ就キ應接ス
問答左ノ如シ

問

今回多人数出京ノ趣右ハ如何ノ次第ナルヤ

答

先般来東京ヨリ西郷桐野篠原等ノ刺客トシ
テ警視局警部奉職ノ者数十名帰国ニ付捕縛
ノ上糾問スルニ川路大警視ノ内命ヲ受ケ刺
客トシテ帰国ノ旨白状シタリ西郷等若シ罪

跡アル有レハ公然其罪ヲナラスヘシ何ソ刺
客杯曖昧ノ御処置ヲナス此義甚タ了解セス
依テ政府へ尋問ノ為メ上京セントス然ルニ
旧兵隊ノ面々何レモ随行シ多人数ニ及ヒタ
リ

問

御國法も之レ有ルニ付兵器ヲ携帯シ通行ノ
義ハ何分相成ガタシ

答

前頭ノ如ク刺客等指向ケラレ曖昧ノ御措置
有之上ハ途中如何ノ変事モ計リ難シ依テ其
為メ兵器ヲ所持シタリ

我

兵器所持ノ上ハ決シテ難差通さしとおしがたし

彼

拙者共出先ニテハ難差扣さしひかえがたく 其儀ハ西郷大将

ヘ談判セラレタシ尤モ専使宿配等ハ兵器ハ所持セス

我

専使宿配等帯刀モ無之哉これなきか

彼

専使ハ知ラス拙者共ハ帯刀セリ

我

帯刀モ今日ハ國禁ナリ其俛そのまま 難差通

彼

成ルベク平穩ニテ通行ノ積リナリ然レ共万

一 巡查等ヨリ疎暴ニ指留さしどめルヤモ難計はかりがたく依テ用心ノ為メ帯刀セリ

我

今回多人数上京ノ原由ハ我カごんれい権令ニ於テハ具サニ承知セス然レ共形容上既ニ御國法ニ觸レタレハ何分難差通さしとおしがたし

朝廷ニ對シ伺ノ筋アラハ法ニ觸レサル様恭順申立ノ道モ可有之これあるべく然ルニ法ヲ犯シテ強ヒテ通行スルカ如キハ不得止やむをえず其筋へ通知シ別ニ處分アルヘシ

彼

如何ニモ御尤ナリ然レ共拙者ニ於テハ難差扣後隊ノ者へハ早速其趣通スヘシ

本日午後第一時鹿兒島縣ヨリ專便トシテ同縣
元権中属原作蔵元権少属高木正栄元等外一等
出仕宇宿行徳うすきゆきのりノ三名出廳シ左書甲印ノ添簡及
ヒ乙印ノ通知書ヲ指出シタリ権令一覽ノ上面
會シ多人數ヲ率ヒ兵器ヲ携へ通行ノ義ハ照會
ニ應シ難キ旨決答ニ及フ所西郷氏ハ大将ニ付
兵器ヲ携フ固ヨリ其権内ノ事故右等ハ直チニ
西郷氏へ談判セラレタシ自分共ハ縣令ノ通知
書并書中不尽ノ廉等演説ニ及フ迄ノ権限ナル
旨申出退廳シタリ

甲印書取

添翰ヲ以テ申進候今般西郷隆盛外人員上京

ニ付万一御縣下ニ於テ訛言かげん浮説等相行ハレ

人民動揺ノ形況けいきようドモ有之候テハ上ハ朝廷下
ハ人民ノ為メ拙者心中ニ於テ憂慮致居候間
別紙御通知ノ趣ヲ以御宮下へ告諭人民動揺
無之様御着手給度御意中ノ事トハ存候得共
此段更ニ内情ヲ以テ御依頼ニ及候也

明治十年二月十四日鹿兒島縣令大山綱良印

熊本縣權令富岡敬明殿

乙印活版

甲第九號

今般陸軍大将西郷隆盛外二名政府へ尋問ノ
筋有之旧兵隊等随行不日ニ上京ノ段届出候
ニ付朝廷へ届之上更ニ別紙ノ通各府縣並ニ
各鎮臺へ通知ニ及ヒ候就テハ此節ニ際シ人

民保護上一層注意着手ニ及ヒ候條篤ク其意
ヲ了知シ益々安堵可致此旨布達候事

但凶徒中原尚雄以下ノ口給相添候

明治十年二月十二日 鹿兒島縣令大山綱良
今般当縣官員へ專便申付御通知ノ事件左ニ
申進候近日当縣ヨリ旧警視廳へ奉職ノ警部
中原尚雄其外別紙人名ノ者共名ヲ帰省等ニ
託シ潜力ニ帰縣ノ處彼等竊力ニ國憲ヲ犯サ
ントスルノ奸謀発覚シタルニ付即チ御規則
ニ本ツキ其筋へ申付該人名捕縛ノ上鞫問きくもんニ
及候處圖ラスモ訣犯ノ口供別紙ノ通ニ有之
候就テハ右事件陸軍大将西郷隆盛陸軍少将
桐野利秋陸軍少将篠原国幹等ガ耳聞ニモ相

觸タルカ右三名ヨリ今般政府へ尋問ノ筋有
之不日ニ当地発程致候間御含ノ為メ此段届
出候尤旧兵隊ノ者共随行多数出立致候間人
民動揺不致様一層御保護及御依頼候也トノ
書面ヲ以テ届出候ニ付縣廳ニ於テ書面ノ趣
聞届ノ上朝廷へ御届申置候間為御心得此段
及御通知候也

明治十年二月 鹿兒島縣令大山綱良

各 鎮 臺

各 府 縣

御 中

鹿兒島縣伊集院郷士族

正兵衛嫡子

少警部

探偵捕縛明治十年二月三日

中原尚雄

三十二

一 自分儀明治九年一月四日少警部拝命奉職罷

在リ同年十一月末方日ハ失念大警視川路利

良宅へ差越候處同人ヨリ各縣ノ事情等彼此

ト承リ候末鹿兒島縣ニ於テ近頃種々不穩向

モ有之^{とても}逆^とモ 西郷陸軍大臣在縣ナレハ名義不

立ニ^{そこつ}僥^そ忽^つノ所為ハ無之トハ申ナカラモ万一

挙動ノ機ニ立至ラハ西郷ニ對面差違ユルヨ

リ外ニ仕様ハナヒヨトノ申聞ニ随ヒ居候折

柄是亦日ハ不取覚同縣士族大山勘助宅へ立

越候處咄ニ西郷若シ事ヲ挙ケハ刺殺ヨリ外

ナキト承候ニ付彌々前件ノ主意包蔵罷在候
内同年十二月廿四日中警部園田長照末廣直
方自分宅へ参り近々帰省願出度含ミト云フ
モ鹿児島縣ノ動静何分世評マチマチノ向キ
申スニ付其儀ニ於テハ自分ニモ共ニ帰省致
シ度相答候處兩人共其意ニ應シ候ニ付即日
其形ニテ皆共罷帰候事

一翌廿五日警視廳内ニテ川路利良へ鳥度面會
ノ節帰省ノ願書可差上候間宜敷相頼候段申
述候處夫ハ好キ事ナリ宜敷氣張呉へク申聞
候ニ付前書云々ノ義モ有之彌決心罷成候尤
モ園田長照方へ集會ノ盟約ニ付午後三時頃
ヨリ指越候處平田半七野間口兼一猪鹿倉保

大山綱助菅井誠美伊丹親恒安樂兼道士持高等追々来集イタシ孰^{いずれ}レモ見込ノ論ヲ立帰省ノ上ハ各卿ヨリ私学校入校ノ者ハ固ヨリ其外へ名分ノ無キ師ヲ起スハ人臣トシテ有間シキト云フ儀ヲ主張シ入校ノ面々且ツ入校志願ノ者共ヲ引離シ度トノ事ニ決議シ候事

一 翌廿六日午後川路利良旧宅当分明家ノ所ニ於テ右人数集會ヲ期シ置キ帰省ノ願書指出候處即時許可相成リ皆々參會ニ及ヒ候其節評議ノ次第ハ第一私學校ノ人数ニ離間ノ策ヲ用ヒ我方ニ人数ヲ引入レ私学校ヲ瓦解セシメ動揺ノ機ニ投シテ西郷ヲ暗殺致シ速力ニ電報ヲ以テ東京ニ告ケ海陸軍併セテ攻撃

ニ及ヒ私學校ノ人数ヲ塵みなごろしロシニイタシ候義

ヲ決定シ電報ニハ園田野間口素ヨリ肥後境
ノ者故熊本鎮臺ニ駆付是ヨリ電報ニ及フベ
キ事ト其他報知ニ於テ悉ク暗號相定メ都テ
決議ノ上明日ノ発程ヲ究メ候併同時ニ発程
候テハ外見ノ畏レモ是レアリ面々仕舞次第
ト取究メ皆共帰宿致シ候事

一同二十七日東京発程横濱迄差越シ一泊翌二
十八日午後第九時玄海丸へ乗船出帆ノ處船
中殊ノ外不冝諸所滞泊ニテ明治十年一月十
一日着縣夫レナリ外出等モ致サス候得共末
廣高崎等参リ呉候儀ハ有之何モ前書探偵ノ
件々モハカドラス折柄暗殺ノ蜜謀発覚イタ

シ終ニ御捕縛ニ相成右次第此度御取調ニヨ
リ陸軍大将西郷隆盛ヲ川路利良ガ命ヲ受ケ
容易ナラザル儀ヲ差挟ミ且ツ人心ヲ離間ス
ルノ始末取企候次第今更何共奉恐入候事
右之通相違不申上候以上

明治十年二月五日 中 原 尚 雄 拇 印

鹿児島縣牛山郷士族中警部

園 田 長 照

同出水郷士族権中警部

野間口 兼 一

同平佐郷士族権中警部

末 廣 直 方

同喜入郷士族少警部

安 樂 兼 道

同加世田郷士族少警部

土 持 高

東京府士族中警部

菅 井 誠 美

鹿児島縣市来郷士族権少警部

高 崎 親 章

同縣下西田士族一等巡查

樋 脇 賢 助

同加治木郷士族二等巡查

伊 丹 親 恒

同谷山郷士族書生

平 田 才 七

同加世田郷士族同

大山綱助

同加世田郷士族同

猪鹿倉保

同平佐郷士族書生

田中直哉

同高岡郷士族権少警部

山崎基明

一自分共儀明治九年一月以来追々警視廳中警

部其他拝命奉職罷在大山綱介猪鹿倉保田中

直哉ハ書生ニテ親敷相交リ然ル處同年十一

月頃ヨリ鹿兒島私學校ノ人員何歟挙動是ア

ル世評ニ付探偵トシテ帰省可致旨大警視川

路利良ヨリ内諭致承知折柄大山勘助ヨリモ
右事件承候ニ付同年十二月二十五日中原尚
雄初メ外十四名集會シ孰いずレモ見込ノ議論ヲ
立テ私學校入校ノ者ハ素ヨリ其外入校有志
ノ面々へ離間ノ策ヲ廻シ人心ヲ引放シ度決
議候事

一翌二十六日午後川路旧宅明家ニ於テ亦集會
ヲ期シ帰省ノ願書指出候處即刻許可相成リ
皆々參會ニ及ヒ候其節ノ評議ニ第一私學校
ノ人員ニ離間ノ策ヲ用ヒ我方ニ人数ヲ引入
レ私學校ヲ瓦解セシメ動揺ノ機ニ投シ西郷
ヲ暗殺シ速ニ電報ヲ以テ東京ニ告ケ海陸軍
併セテ攻撃シ私學校ノ人数ヲ麤みなごロシニ致シ

候儀ヲ決定シ電報ノ役ニハ園田野間口素ヨ
リ肥後境ノ者故熊本鎮臺ニ駆付是ヨリ電報
ニ及ブベキト其他報知ニ於テモ悉ク暗號相
定メ都テ決議ノ上明日ノ発程ヲ相究メ尤モ
同時ニ出立候テハ外見ノ畏レモ是アリ面々
仕舞次第ト取究メ皆共帰宿致候事

一同二十七日ヨリ翌二十八日迄ニ東京発程明

治十年一月中旬ニ至リ孰^{いざ}レモ鹿兒島着前件

探偵等モハカドラザル内蜜謀発覚イタシ終

ニ御捕縛ニ相成右ノ次第川路利良カ命ヲ受

ケ容易ナラザル儀取企候始末今更何共奉恐

入候事

右之通相違不申上候以上

明治十年二月七日

田	猪	大	平	伊	樋	高	菅	土	安	末	野	園
中	鹿	山	田	丹	脇	寄	井	持	楽	廣	間	田
直	倉	綱	才	親	賢	親	誠		兼	直	兼	長
哉	保	介	七	恒	助	章	美	高	道	方	一	照

山崎基明

各拇印

鹿兒島縣加治木士族四等巡查

前田素志

同帖佐郷士族四等巡查

高橋爲清

同平佐郷士族書生

柏田盛文

同蒲生郷士族四等巡查

松下兼清

同加世田郷士族二等巡查

西彦次郎

一自分共儀明治九年九月以来追々警視廳へ奉

職罷在候處同年十二月警部末廣直方始メ其
他鹿兒島私学校ノ者共容易ナラサル形勢ニ
因リ探偵方トシテ帰省ノ段粗々あらあら承リ同ク探
偵方トシテ帰省致度存シ同月二十六日川路
利良ノ内命ヲ受ケ同縣士族大山勘助へ帰省
ノ願書差出候處即刻許可相成リ探索等精々
心ヲ用ヒ且ツ私学校人員入校志願ノ者ヲ離
間イタシ候様其他ノ儀共ハ末弘等ノ指令ニ
従フヘキ旨承知致シ尤モ集會等ニ一切關係
不致候事

一同日ヨリ翌二十八日迄銘々発程明治十年一
月中旬ニ至リ鹿兒島エ着シ前件探偵等モ不
相叶内密謀發覺シ終ニ御捕縛ニ逢候事

右之通相違不申上候以上

明治十年二月七日 前田素志

高橋爲清

柏山盛文

松下兼清

西彦四郎

各拇印

訣犯外三十二名之ヲ略ス

鹿兒島縣第一大區二小區

十番地居住士族野村好酔

嫡子

野村綱

一自分儀旧宮寄縣廢合ノ末宮寄学校處分ノ事

モ有之旧学校弟子九名方向取定メノ為メ明
治九年十二月五日方同伴当地出発同二十八
日着京其時分紛々鹿兒島動揺ノ風聞有之因
家ノ為メ都合ノ義ト思ヒ込ミ同三十一日大
久保卿へ鹿兒島表ノ説路頭ニ紛々ト有之上
等社會ニ於テハ確實御熟知ノ御事トハ乍存
路頭ノ説ノ様有之候テハ甚タ不却都ノ始末
故私儀モ悉シクハ不存候得共御聞被成度候
ハ、可致世頭トノ趣郵便ヲ以テ申遣候處十
年一月三日参リ呉候様申来リ罷越候處前書
ノ始末如何ト被相尋候ニ付成程一時ハ壮士
輩競ヒ立候得共十一月下旬方ヨリ静定ノ向
ニテ自分出立ノ砌ハ穩ニ候若シ路頭ノ説ニ

テ政府處分ヲ誤ル事有之候テハ實ニ為国家
不容易次第ニ有之候旨申演候處此末ハ如何
成リ立ツベキヤ如何カ處分然ルヘキヤ被申
候ニ付之ハ私共ノ見ニ及間敷相答候處先ツ
鹿児島私学校ハ一体政府ノ為メニ一大腫物
ノ如シ仍テ我輩ノ工夫ニハ盛大ナル学校ヲ
設立シ少年輩ヲメ學問ノ方向ヲ定メシメ同
校人数ヲ離間シ諸郷ニモ同様着手イタシ漸
次腫物ヲ少クスルニ如スト承リ候事
一同二十九日申來候ニ付罷越候處三十一日ノ
飛脚船ヨリ出立候様尤モ鹿児島ノ人氣ハ起
リサメ仕易キ國柄故免角ニ三月頃ガ懸念ニ
被思且ツ陸軍省ヨリ彈藥等取寄候手都合モ

有之通例ノ事ナラ郵便又ハ電信ヨリ被申越
度而シテ動揺甚敷時分ハ乍御苦勞直チニ駈
付ケ呉レ度其節ハ郵便ハ止リ電信ハ切ルヽ
ニ違ヒハナシ其上陸軍等ノ用意ハ成程非常
ニ備ルト云フモノヽ確タル報ナラテハ人民
ノ騒キニモ相成ル事故其節ハ直ニ馳付ケ呉
候様殊ニ警視廳ヨリモ探索差出シ有之候皆
必死ノ格護ニテ先達テ出立セリ暴発等ノ節
ハ自ラ大小為ス所アルヘシト懇々被申演候
ニ付其意ハ畢竟主仕ノ人ヲ斃たおスカ又ハ火薬
庫へ火差入ル等ノ事ニテ随分仕果スヘクト
汲受ケ左様ノ事ナラ承知仕候旨相對へ候處
金百円報知ノ路費トシテ被差出候ニ付受納

イタシ而シテ此度貴公ノ事モ誰モ知ラヌ事
故其段ハ深ク可指含尤先達テ差出候探偵人
名ハ是ナリ為心得トテ半切紙ニ書キタル人
名ヲ出サレタリ一見スルニ何等警部或ハ何
等巡查或ハ書生ノ片書ト郷名有之候其書面
ハ警視廳ヨリ廻リ来リタルモノニテ候事

一 同年一月三十一日東京出立神戸ヨリ迎陽丸
ニ乗組ミ帰縣候處中原尚雄等警視廳ヨリ内
諭ノ次第発覚イタシ御捕縛相成候段承り自
分ニ於テモ前書承知イタシ候件々彼是右次
第二付テハ今更看手ノ道無之大書記官田畑
常秋へ大略申出深重ノ竹ハ包蔵イタシ居候
處再ヒ御喚出相成第一分署へ指廻サレ猶御

取調ノ末前件形行申出候事

右之通相違不申上候以上

明治十年二月十三日 野村 綱拇印

是ヨリ先キ十二三日ノ頃ヨリ熊本市内ノモノ
追々家具家財等ヲ市外へ運搬ノ模様ナリシカ
愈々狼狽奔走スルニヨリ鹿兒島人應接トシテ
官員出張中ニ付猥リニ立騒カサル様熊本市中
へ達タリ然ルニ最早事情切迫ニ付萬一如何立
至リ候哉モ難計就テハ老弱界女等速カニ市外
へ可立除旨尚又熊本市内へ相達シ而シテ右立
除候者困窮ニテ糊口難渋ノ者ハ適宜ノ方法ヲ
設ケ精々救助スヘキ旨區戸長へ達タリ

午後第十時過内務大書記官品川弥二郎熊本着

ノ上出廳シタリ

二月十九日

午前第八時十五分西京発ス電報ニテ三條大政大臣ヨリ左ノ通御達アリ

鹿兒島縣暴徒兵器ヲ携へ其縣下へ乱入叛跡

顯然ニ付本日征討仰セ出サレタリ此旨相達

ス

二月十九日

三條大政大臣ヨリ左ノ電報ヲ以テ御達有之旨

谷陸軍少将ヨリ通知アリ

鹿兒島縣暴徒熊本縣下へ既ニ乱入ノ趣報知

ニ付本日征討被仰出有栖川宮へ征討惣督被

仰付タリ此旨為心得相達ス

二月十九日

午前十一時十分鎮臺城自焼シ天守始メ本営不
残焼夫唯々宇土櫓ト称スル處ノ一棟ノ櫓ヲ残
スノミ而シテ焰火延イテ第一大區六小區藪ノ
内邊へ移リ坪井千反畑等戸数凡ソ千軒餘消失
セリ

午後第五時第四大區三小區御船町ニ仮廳ヲ設
ケ移轉シ一等属近藤幸止東島寛證等数名ヲ本
廳ニ留メ置タリ熊本裁判所及ヒ區裁判所トモ
本日同所へ移轉セリ

午後一時廿五分西京発ス電報ニテ左ノ通大久
保参議ヨリ達アリ

本日長崎ヨリ綿貫警視巡查引纏メ其地へ向

ケルニ付諸事協議セヨ

三條大政大臣ヨリ左ノ電報ニテ御達アリ

西京御駐輦^{れん}被仰出タリ就テハ都ヘテ征討ニ

関スルコトハ行在所ヨリ達ス委クハ郵便ヨ

リ達スヘシ

二月十九日

警視局ヨリ左ノ通電報アリ

熊本郵便局為換ヤメルニ付テハ過超金取締

タシ別シテ郵便注意アレ

伊藤工部卿ヨリ左ノ通電報ニテ達アリ

電信局鎮臺へ引移リ縣廳ノヘダタヲ電信配

達指支ルニ付常ニ電信受取ノモノ同局へ指

出置クヘシ

午後第十二時五十五分西京発ス電報ニテ三條
大政大臣ヨリ左ノ通御達アリ

鹿兒島縣暴徒兵器ヲ携へ熊本縣下へ乱入叛
跡顯然ニ付征討被仰出タリ就テハ右逆徒自
然遁逃又ハ潜匿可致哉モ難計ニ付取締手配
ヲナシ嚴重搜索捕縛スヘシ尚委細ハ郵便ニ
テ達スヘシ

午後第十二時警視局巡查八十人着縣シタリ
昨十八日一等属近藤幸止等鹿兒島縣人数宿配
惣轄河野四郎左エ門外二名へ應接ノ際人数繰
出シノ模様ヲ聞タルニ今夜二千人計別府所左
衛門総轄ニテ日奈久泊リニテ明十九日小川泊
リノ筈ナリト又宿割ハ熊本ヨリ何レへ道スル

ヤト問ヒシニ熊本以北ハ未タ相知レス先ツ熊本迄ノ積リニテ操リ出シタル旨答ヘタリト
十八日九年十月暴動ノ懲役人四十三名大分縣へ送致セリ而シテ其旨本日内務省へ届ケ出タ
リ
今般征討被仰出ニ付東京ヨリ出張ノ巡查小銃持参及ヒ本縣巡查帶刀ノ義臨機差許シタル旨
品川大書記官連署ニテ鎮臺へ通知セリ、
昨十八日桑原七等出仕へ至急帰縣スヘキ旨申
達ノ電報通達方榎村京都府知事へ依頼セシニ
未タ着セサルニヨリ着次第通達スル旨本日電
報ニテ回答アリ

二月二十日

賊兵二月十五日鹿兒島出立シ同十七日縣下水
俣ニ泊シ本日午後第三時壱番隊ハ川尻ニ着二
番隊ハ宇土ニ着セリ
賊兵ハ六大隊ニテ一万二千人ト號ス而シテ一
番大隊長ハ別府新助ニ番大隊長ハ知レハ三番
大隊長ハ村田ニテ四番隊ニ西郷アリ篠原桐野
ハ六七番隊長ナリト
手前第三時警視局巡查百十五名綿貫小警視引
率シテ着シ同十一時尚又二百五十名着シタリ
先キニ着縣シタルモノヲ合セ出張ノ巡查總計
四百四十五名皆ナ銃器彈藥ヲ携持シ来レリ
昨十九日鐘臺ノ出火ヨリ引續熊本市中處々出
火シ鎮臺ヨリハ要衝ニ當ルノ架橋等ヲ燒キ拂・

炎焰天ニ漲リ火勢愈盛ンニシテ未タ底止消滅
ノ程ヲ知ラス斯クノ次第ニ付熊本市在ノ人氏
ハ尽ク避ケテ市外ニ出テ市中ノ形況實ニ目ニ
視ルニ忍ヒサルナリ

即今当縣非常ノ際ニテ巡查其外ヘノ食糧多分
入用ニ付兼テ御達ニヨリ買上ケタル米相用ヒ
且ツ金ノ儀モ何レ臨時費申立ツヘシト雖モ指
向キ租税金ヨリ遣ヒ拂フベクコノ義夫々聞置
カレ度旨電報ヲ以テ大蔵卿ヘ申出タリ即日電
報ニテ左ノ通指令アリ

米金トモ遣ヒ拂ヒノコト聞届ケリ追テ受ケ
納メノ手續セヨ

當縣士族ノ挙動タルヤ未タ其形チニ頭ハレス

ト雖モ各種ノ黨派どとうしやうしやう叟々しやうしやうトシテ議論互ニ相
容レス或ハ云フ薩人頻リニ刺客ノ事ヲ以テ名
トスト雖モ果シテ然ルカ如キハ大久保内務卿
川路大警視ト西郷桐野篠原等ト相互ヒノ私事
ナル耳のみ然ルニ何ソ国法ヲ犯シ兵器ヲ弄シ多数
ノ人員ヲ率ヒ他ノ人民ヲ動揺セシムル事ヲ為
スト或ハ云フ西郷等あに豈ニ小憤ヲ以テ事ヲ挙ル
者ナランヤ必スヤ大ニ見ル所アリテ然ルモノ
ナラント或ハ云フコノ事ノ起ルヤ其原由ハ大
政當ヲ得サルニ因レリ故ニ愚存ヲ建言セント
テ上京願出ツル等其他各黨数種ノ論議ふんぬん紛ふん紜ぬんタ
リ而シテ他ノ人民ノ●々タルハ顛躓てんしつ狼狽東西
奔馳実ニ傷心ニ堪ヘサルナリ

二月二十一日

午前第四時頃我鎮臺ノ斥候兵川尻ニテ賊兵ニ
行遭ヒ始メテ一小戦ヲナシタリ。

午後第二時頃臺兵洗馬橋畔ニテ賊兵二名ヲ射
殺シタリ

鹿児島縣ヨリ各府縣ヘノ通知書ヲ持チモギ浦
ヘ来リシモノ十名昨二十日夜捕縛シタル旨長

寄縣ヨリ電報ヲ以テ通知アリ而シテ先キニ當
縣ヘ来リシ專使ハ何レモ福岡ニテ捕縛セリ

鹿児島人ノ帶刀或ハ銃器ヲ携ヘルモノ二十名
程モギ浦ヘ上陸セシユヘ十名余捕縛シタル者

尚又長崎縣ヨリ電報ニテ通知アリ

神戸ヨリノ歩兵四千人本日午前ニ福岡着ノ筈

ナル旨該縣ヨリ電報ニテ通知アリ

大久保内務卿ヨリ左ノ通電報ヲ以テ達アリ

兵隊屯集ノ節糧米無指問さしつかえなき様充分手當致シ置

クヘシ支廳ヘモ都合シヲケヨ

午後第五時權令品川大書記官等ト総督宮御出
迎且ツ諸般ノ都合ニヨリ本縣廳ヘ復歸セラレ
タリ

当夜ヨリ電信線切断シテ通セス依テ八等属井
坂幹ヲ久留米電信局ヘ遣シ尚引續等外一等出
仕脇山武和ヲ同局ヘ遣シ目下ノ事情ヲ東西京
ヘ急報セシメタリ

熊本市中ノ火勢益々盛ンニシテ本日ニ至リ東
西南北ニ延焼シ市中七分迄モ消失ノ模様ナリ

而シテ火尚消滅セス

鹿兒島縣暴徒御征討ニ付野津陸軍少將一旅團
ヲ率ヒ三好陸軍少將一旅團ヲ率ヒ本日出發ノ
電報有之旨熊本鎮臺ヨリ通知アリ

是ヨリ先キ熊本鎮臺へ小倉分營ノ兵一大隊ヲ
徴シタリ内二中隊去ル十九日到着シ而シテ残
ル中隊本日マテ尚到着セス

二月二十二日

賊兵遂ニ熊本へ迫り進ミタリ是ヨリ先キ鎮臺
ニハ籠城防戦ノ積リニテ二月十四日ヨリ士官
等モ本臺へ詰切りシカ同十九日ヨリ全ク籠城
セリ是ニ於テカ賊兵本日午前第八時ヲ以テ城
ノ八方ヨリ小銃ヲ発ツテ攻メ来リ藤崎口尤モ

甚シ臺兵能ク防キ戦ヒ大小銃ヲ発ツ事雨ノ如ク又霰ノ如シ第九時頃ヨリ相方最モ苦戦シ午後第四時ニ至リ始メテ休戦シタリコノ戦ヒヤ臺兵氣勢殊ニ盛ンニシテ且ツ善戦ヘリ賊兵亦タ頗ル鋭ナルカ如シト雖一野砲ノアルナク我カ激砲ニ固ヨリ敵スル能ハス臺兵全ク勝利ニテ賊ノ七番小隊長宇都宮龍左衛門ヲ射殺シ其他ノ賊兵ヲ殺傷スル殆ント五六十人ヲ超ユナルヘシ而シテ臺兵ノ死傷僅カニ十二三名ノミ其中千與庫樺山ノ両中佐モ疵傷ししょうヲ受ケタリキ藤崎ノ戦ニ於テ我カ軍曹小川三政跡込スタール銃壬申四八一五白川縣ノ検査印アルモノヲ分取シタリ而シテ臺兵某ハ肥後人ニ類似スル

モノ馬上等兵ヲ指揮スルヲ狙撃シテ斃たおセリ或
ハ云フ池邊吉十郎ニアラサレハ松浦新吉郎ナ
リト然レ共其死尸ヲ護サルニ付其事ヲ詳カニ
セス

賊兵既ニ熊本ニ充満シ道路梗塞シテ通セス依
テ警護兵ヲ借り八等属青山輝正ヲシテ久留米
電信局ニ就キ戦状ヲ東西京ニ報セシメタリ然
ルニ賊ノ支ヘラレトナリ終ニ往クヲ不得シテ
帰来セリコノ時ニ當リ右警護兵即チ東京巡查
某京町通ニ於テ賊ノ斥候ニ逢ヒ之ヲ逐射ちくしゃス中
ラス其刀銃二品ヲ分取ス銃ニ竹下順助ト記載
シタル木札ヲ付ケアリタリ

午前第八時頃賊兵ノ小隊安政橋ヲ經過ス臺兵

着発弾ヲ以テ狙撃シタリ其着発意ノ如シ我兵
快ト称ス

熊本市中ノ炎焰えんえん 尚ホ未夕消滅セス各所火烟ノ
上ルヲ見ル偶々焼ケ残ルノ土蔵等之レアルモ
合戦不便ニ當ル分ハ鎮臺ヨリ焼キ玉ヲ発ツテ
焼キ払ヘリ

是ヨリ先キ二月十二日十三日ノ両日ニ於テ熊
本鎮臺烟火ヲ揚ケ競馬ヲ行ヒ或ハ角力ヲ取ラ
シメ盛ンニ戦死者ノ招魂祭ヲ執行セリコノ執
行ヤ兵士ノ氣勢ヲ張り勇氣ヲ益シ今回ノ合戦
ニ於テ其勢力ヲ助クルノ一効トナレリト

二月二十三日

午前第三時賊兵西南ヨリ藤崎及ヒ古城ニ向ヒ

攻撃シ来レリ臺兵之レニ應シ大小銃ヲ激発セ
リ午前第九時賊兵花岡山へ大砲三門ヲ上ボシ
タリ是レヨリ賊兵始メテ大砲ヲ用ヒ爾後互ニ
砲戦トナレリ而シテ午後第五時ニ至リ合戦僅
カニ止ム
賊ノ飛丸雨ノ注クカ如ク縣廳居ルヘカラス依
テ権令品川大書記官等ト避ケテ鎮臺ニ移レリ
午後第四時小萩山ニ於テ火ヲ揚クルアリ幕寮
云フ小倉兵ノ鎮臺ニ来ルモノ或ハ合圖ヲナシ
我ニ示スモノナラント而シテ終ニ不来
午後第九時賊兵上林ニ集リ頻リニ発砲シ第十
時前ヨリ内坪井及ヒ京町邊ヨリ小銃ヲ激発シ
第十二時頃ニ至リ藤崎並ニ古城ノ方へ轉シ盛

ニ発砲セリ

昨日ノ戦争ニ於テ賊兵ノ士官ラシキモノヲ射
殺セリ或ハ云フ遠眼模糊ナリト雖モ其風姿別
府所左衛門ニ類似セリトコノ日午後第五時ヨ
リ細雨霏々ひひタリ

二月二十四日 天晴

午前第一時廿分ヨリ賊兵段山ヨリ発砲ヲナシ
同八時宮内向ヨリ又発砲セリ臺兵之二應シ発
砲ス賊元ト大砲都合六門計リ所有ノ模様ナリ
内一門本日花岡山ニ於テ我カ大砲ノ撃破セラ
レトナレリ

午後第五時頃賊兵狼狽ノ体ニテ往々退散ノ模
様アリ

當縣士族ノ内或ハ賊徒ニ與ミスル模様アリ既
ニ米田監物元家来久保田某外二名ヲ捕縛シタ
リ然レ共當縣士族ハ戦争ノ際ニ於テモ自ラ薩
賊ト別異ノ体ヲナシ後口鉢卷ニテ羽織袴ヲ着
スルモノ多シト
與倉中佐疵傷治シ難ク昨夜終ニ死シタリ
開戦以來本日迄疵傷ニヨリ病院ニ入りタルモ
ノ六十四名アリ
午後第五時過ニ及ンテ賊兵ヤ々退ソキ京町通
其他ノ道路通スル趣ニヨリ鎮臺看囚宍戸某ト
共ニ雇古藤秀唯布田直記ヲシテ百貫碇泊ノ軍
艦ニ消息ヲ通シ且ツ東西京へ電報差出シノ為
メ出城セシメタリ

午後第八時八等属青山輝正ヲシテ御船町仮廳
ノ模様見分且ツ東西京へ電報差出シノ為メ出
城セシメタリ

二月二十五日

昨日合戦ノ後賊兵退散ノ模様ニテ為指戦争ナ
シ唯各處焼ケ残リノ土蔵又ハ土塀等ニ五人或
ハ十人潜伏スルノ賊ヲ狙撃スルノミ而シテ潜
伏ノ賊ハ縣下神風連ノ如キ徒ナルカ時トシテ
弓矢ヲ放テリ

城中酒罄っキタリ依テ午後第二時頃ヨリ六等属
森下武重焼ケ残リタル市中ノ酒蔵ニ就キ取ラ
ントス夫卒ヲ率ヒテ出城セリ然ルニ處々潜伏
ノ賊兵等狙撃シテ支フルニ付其事ヲ不果シテ

歸レリ

御船町假廳ノ消息未タ詳カニスルヲ得ス午後
一時頃等外一等出仕積惟治ヲ該處へ指向ケタ
リ

開戦ヨリ本日マデ臺兵ノ死タルモノ総計三十
六名ナリ而シテ賊ノ死傷ハ想フニ数百ニモ及
ヒタルヘシ

二月二十六日

賊兵花岡山ヨリ時々大砲ヲ放チ各所潜伏ノ賊
兵モ時々小銃ヲ放テリ而シテ臺兵之レニ應シ
大小銃ヲ放ツノミ

正午十二時頃ヨリ植木地方ニ当リ本城ヲ距ル
二里内外ノ處ニテ頻リニ砲聲ノ響キアリ小倉

兵或ハ賊兵ト戦フモノナラントシ既ニ臺兵半
大隊右地方へ向ケ進撃ノ議ニ及ヒタリト

午後第六時頃ヨリ金峯山裏面ノ海上ニ當リ数
聲大砲ノ響アリ

同時頃賊兵花岡ヨリ頻リニ発砲シ同七時廿分
千葉城ノ麓ヨリ亦タ発砲シタリ臺兵之レニ應
シテ発砲セリ

鎮臺ヨリ市街ニ向ヒ時々焼キ玉ヲ発ツニヨリ
今夜ニ至ルマテ尚ホ各所ニ炎烟ノ起ルヲ見ル
午後第十時頃城中ニ於テ烟火数発ヲ揚ケタリ

二月二十七日

午前第四時鎮臺ノ喇叭手十数名喇叭ヲ吹き数
回城中ヲ巡リタリ

午前第九時三十分六等属森下武重臺兵五十名
ト共ニ出城シ京町ニテ大豆三俵生酒二十四樽
ヲ取り帰レリコノ時賊兵各所ニ二三人或ハ四
五人散居シタリト雖モ臺兵ノ至ルヲ見テ皆ナ
遁匿セリ

午後第三時臺兵三小隊警視局巡查一小隊ヲ以
テ賊兵ノ坪井邊ニ抛ルヲ衝キ臺場ヲ奪ヒ巢窟
ヲ焼キ互ヒニ死傷アリ我カ大迫大尉ハ頬部ヲ
射徹サレ池端警部ハ死シ而シテ其尸ヲ護ス第
六時ニ至リ引揚ケタリ
右戦争ノ後ハ終夜臺兵各自ノ持場ヨリ各處潜
伏ノ賊兵ヲ探撃スル耳

二月廿八日

昨日ノ進撃ニ於テ臺兵ノ即死スル者五人ニテ
手負九人ナリ巡查ノ即死スル者六人ニテ手負
四人ナリ内三人ハ我カ破裂丸ニテ傷セリ而シ
テ警部補詫摩道保モコノ戦争ノ際即死セリ

午前第十時六等属森下武重夫卒ヲ率ヒ聚糧しゅりようノ
為メ洗馬邊へ出タリ然ルニ賊兵ノ狙撃セラレ
トナリ僅カニ玄米貳十俵ヲ得テ帰レリ

鎮臺の乗馬尅疋花岡山賊砲ノ為ニ傷ケラル臺
中肉既ニ尽キタリ依テ屠ほつりテ兵士ニ頒ツ皆ナ旨
シト称ス

本日合戦ナシ唯臺兵各所潜伏ノ賊兵ヲ探撃ス
ルノミ

三月一日

本日賊兵花岡山へ出沒シ人数増加ノ模様ナリ
臺兵片岡邸高藪ノ内へ臺場ヲ新築シタリコノ
時賊兵山上ヨリ頻リニ空砲ヲ發シ山下ヨリ破
裂丸ヲ放ツテ支ヘタリ臺兵之レニ應シテ發砲
セリ以後唯各處潜伏ノ賊兵ヲ探撃スル耳
去月廿二日開戦ノ時ニ方タリ藤崎ヨリ賊兵ヲ
進撃セリ其際臺兵斉藤弥七ヲ失フタリ皆ナ以
為ク弥七賊丸ニ中リテ死シ其尸ヲ獲ラルト臺
兵或ハ處々探索スト雖モ獲ス然ルニ本日ニ至
リ藤寄ノ麓ヨリ仰さしまねくヒテ麾クモノアリ臺兵以テ
賊ナリトシ一丸ヲ發ツ中ラス尚麾ク事人ヲ召
フ状ノ如シ依テ臺兵其傍ニ至リ之ヲ見レハ則
チ先キノ斉藤某ナリ某頬部及ヒ足脛ヲ射徹サ

レ死セス白晝動ク寸ハ賊ニ認メラルノ恐レア
リ故ニ菰ヲ冒リテ静カニ伏シ夜ハ間ヲ伺ヒ僅
カニ葡伏シ八日ヲ経テ終ニ本日帰營セリ其間
固ヨリ一飲食ヲナサス疲労甚シ然レ共医員云
フ尚ホ生クベシト
本日兵糧ヲ實査スルニ現石六百石餘アリ以後
尚廿三日ヲ支ベシト

但尅日分現今二十九石ヲ費用スト

三月二日

賊兵各處ヨリ時々発丸臺兵之レヲ狙撃シ別條
ノ合戦ナシ

午前第九時聚糧立合トシテ六等属森下武重出
張シ坪井京町邊等ニテ米五十俵ヲ得テ帰レリ

三月三日

先キニ外情探索等ノ為メ鎮臺ヨリ出城セシメ
タル看囚宍戸某本日帰營セリ其復命書左ノ如

シ

一 高橋街道全ク梗塞セリ

一 百貫沿海ニ賊兵番船ヲ置ク

一 二十五日賊兵横島ヨリ高瀬ニ繰出ス凡ソ

七百計リ

一 二十六日高瀬植木ノ間処々ニテ戦争アリ

但シ十四聯隊ナリ

一 高瀬ニ着シテ乃木少佐ニ面謁ス

一 高瀬以北ハ悉ク官兵ノ占領スル處トナル

一 山鹿ハ占テ又賊ノ有トナル

一 乃木少佐ノ命ヲ受ケ南関ニ至ル

一 高瀬ヨリ南関迄山ト無ク川ト無ク悉ク官

兵充滿セリ

一 両旅團ノ本營ハ南関ニアリ

一 南関ニ来ル電信ニ曰ク廿二日百貫沖ニ碇

泊スル軍艦ノ士官一名水夫八名上陸シテ

行衛不相分あいわからず

一 高瀬ノ賊兵熊本士族ヲ混合セリ此賊兵大

砲ハ所持セス

一 不日第三旅團モ着ノ筈

一 征討將軍ハ本日頃南関へ着ノ筈

一 電信ハ南関ヨリ相通ス

一 熊本縣廳ハ南関寺院ニ置ク

一山鹿ノ賊ハ大凡ソ三千人トノ風評

一賊大津街道ニ出張之レアル由

一鶴崎口ヨリ官兵七百人計リ来ル由

一西郷桐野篠原等ノ位階ヲ奪ハレシトノ風

評

以上

宍戸某尚ホ曰ク薩ノ蒸気船壱艦ヲ官兵奪ヒ取

リタリ船中少々弾薬ヲ積ミ置キタルト

又曰當縣士族ノ内ヨキ分ハ決シテ動カスト雖

モ力士様ノモノ専ラ周旋シ愚民ヲ煽動シ為メ

ニ黨輿ヲ募ルト

又曰農民ノ内賄ノ焼キ出シ等無錢ニテ之ヲ為

シ或ハ献金スルモノアリト

又曰西郷ハ夜々寢處ヲ替へ坪井邊ニ潜伏スト
又曰ク賊等農商ヲ欺クニ諸事旧政ノ如クナシ
遣ス云々ノ言ヲ以テシ専ラ人望ヲ取り欣慕セ
シムル術ヲナスト

又曰ク熊本旧知事愈出縣ノ由ナリト

又曰廿二日植木町木葉宿ノ間ナル向坂ニテ戦
争アリ官軍大二利アリ廿三日官軍高瀬ニテ賊

兵ト戦ヒ二十四日處々ニテ戦争シ彼我相引セ

リ二十五日二十六日官軍木葉マテ進撃勝利ア

リト

又曰ク山鹿ニテ賊ノ死骸ヲ葬ル四百人ニ及へ

リト

又曰ク野津少将ハ南関本營ニアリ三好少将ハ

賊丸ノ為メ手ニ疵ヲ受ケ乃木少佐ハ足ヲ傷セ
リト

又曰ク山鹿ヨリ一里餘北ニ方リタル南関往還

腹切坂ノ嶮^{けん}ニ據^{より}リテ官軍賊兵ヲ拒^{しりぞけり}ケリ 二十六

日賊高濱町ニ放火シ過半消失セリ

又曰ク賊兵ノ内白鉢巻ニテ甲冑ヲ着シタル者

ヲ見受ケタリト

午前第九時三十四分高瀬北方當リ大小銃ノ聲

遙カニ聞ヘリ

午後一時頃賊兵花岡山ヨリ天守ヲ狙ヒ頻リニ

発砲セリ

其他別條ノ戦ナシ唯々時々賊兵発丸シ臺兵之

レヲ應撃スルノミ

三月四日

午前第九時頃花岡山麓ヨリ賊兵本營へ向ヒ数
度発砲セリ

午前第十時頃ヨリ降雨霏々ひひ 賊兵時々発砲臺兵
應撃又探撃ス

賊ノ死体本日辻川尻ニ葬ル者数十名アリト

三月五日

開戦以来本月二日辻我カ臺兵ノ戦死スル者五
十二人軽重傷ヲ受クル者都合百八十二人ナリ
其内本日辻猶又五六人死セリト

午前第十時頃ヨリ植木地方ニ當リ頻リニ砲聲
ノ響キアリ午後第四時ヨリハ烈シク小銃ノ聲
アリ而シテ朝来ノ砲聲ニ比スルニ其響キ近ク

聞へり

花岡山ヨリ賊兵時々発砲シ臺兵應撃又ハ探撃スル事例ノ如シ

昨朝来依然雨天夜ニ至リテ晴レタリ

三月六日

午前第九時頃賊花岡山ヨリ数度大砲ヲ発テリ

同十時ヨリハ鎮臺練兵場ヨリ頻リニ小銃ヲ射

発セリ臺兵之レト應戦セリ

植木ノ左右ニ當リ終日大小銃ノ聲響烈シク聞

へり

本日午後第四時長官及ヒ品川大書記官等本縣廳ニ復帰セラレタリ鎮臺ニ在ル事十有二日ナ

リ

三月七日

午前第八時過ヨリ賊兵城ノ東南西ヨリ大小銃
ヲ以テ烈シク攻撃シ来レリ臺兵之レヲ邀戰ようせんシ
同第十時過ニ至テ止ムコノ戰ニ於テ臺兵ノ即
死スル者二人手負十一人アリ

正午第十二時賊兵一大隊程白川向フ筋ヨリ北
方へ繰リ出シタリ

右激戰ノ後賊兵各所ヨリ時々小銃ヲ發チタリ
臺兵亦タ之レヲ應撃ス

三月八日

午前第十時三十分ヨリ賊兵花岡山及ヒ安政橋
畔ノ臺場ヨリ發砲シ同十一時過ニシテ止ム
午後一時四十分ヨリ花岡山ノ賊兵ト大小銃ノ

戦アリ飛丸恰モ織ルカ如ク縣廳ノ屋上ヲモ一
ノ破裂丸ノ為メ穿タレタリ同三時三十分ニシ
テ止ム

晩来ヨリ雨降り夜半ニ至リ甚シ矣然レ共コノ
夜合戦ナク唯々臺兵ノ各所ヲ探撃スルアル耳

三月九日 半晴半雨

午前第十一時頃ヨリ植木地方ニ當リ大小砲ノ
聲響アリ

午後第四時前ヨリ賊兵花岡山及ヒ安政橋邊ヨ
リ頻リニ発砲シ臺兵應撃同五時三十分ニシテ
止爾後臺兵例ノ如ク時々各所ヲ探撃スル耳

三月十日

午矣矣兵安政橋邊屯集ノ賊兵ニ向ケ発砲セリ

賊兵亦夕発砲シテ應シタリ

午後第二時頃ヨリ賊兵細工町邊ヨリ古城へ向

ケ頻リニ発砲セリ

晚来小雨霏々暫時ニシテ晴ル

臺兵ノ探撃例ノ如シ

三月十一日

本日午前賊兵ヨリ左ノ矢文ヲ片山邸へ投射セ
リ

矢文寫

今般政府妄リニ暗殺ヲ謀リ自ラ國憲ヲ犯ス
ノ罪有之尋問ノ為西郷陸軍大将外二名衆ヲ
師ヒ此ニ至ルニ当縣鎮臺名義ヲ辨セス城ヲ
閉チテ逆へ拒キ人民ヲ妨害ス其罪甚シ我衆

憤怒シ將サニ日ヲ刳シ城中ヲ塵みなごろしロシニセン

トス然レ共瞶ぼうまいきようじゆう昧脅從ノ輩其情憫ム可キニ在

リ諸口々前非ヲ悔ヒ兵器ヲ捐すテ来服スル

者ハ必シモ其罪ヲ問ハス且山鹿高瀬諸道ノ

東軍我悉ク之レヲ擊破ス各縣義勇ノ起ル蜂

窠かヲ破ルカ如シ然ルニ公等猶孤城ヲ守リ糧

竭キ援絶へ危キ事瞬息ニ在リ公等其レ速力

ニ向背ヲ決セヨ

三月

おふを急お棄ふハ皆くち屋る来る當る羅る籠る城るのちをもたか棄ら
く兵るもを急る棄るハ皆くち屋る来る當る羅る籠る城るのちをもたか棄ら

午前第三時頃ヨリ植木ノ左方ニ當リ頻リニ砲

撃聞へリ

午後一時三十分ヨリ賊兵烈ケシク本臺ニ向ヒ
発砲シ臺兵亦夕痛ク應撃シ第五時ニ至テ止ム
午後第七時頃臺兵数度発砲シ餘ハ例ノ探撃ス
ル耳

晚来植木ノ左方ニ当リ烈ケシク小銃ノ聲アリ
夜半過キニ至テ止ム

三月十二日

午前第十時頃ヨリ双方互ヒニ少々発砲セリ
第六大區三小區菊池郡水次村平民内藤弥富ナ
ル者ヲ本日午前ニ於テ下馬橋口ニテ捕縛セリ
コノ者タル熊本段山村ニアリ親属ノ安否ヲ尋
問セン為メ来リシ途中昨十一日午前第二大區
十小區春日村ニテ賊ノ為メ捕縛サレ今朝迄拘

引ノ上官軍ノ間者タル疑ヒヲ受ケ種々糾問ニ
會ヘリ該賊ハ当縣士族大矢野八郎ナル者長ト
ナリ其他五十名程附随セリ而シテ今朝ニ至リ
大矢野八郎外二名ニ引連レラレ長六橋際屯集
ノ賊軍本陣ト覺シキ處ニ参リ城外マテ我カ使
トシテ往キ其功ヲ立ルニ於テハ放免スヘキ旨
申入レラレ使ト大書シ下ニ昨日投射シタル矢
文ノ文意ヲ記載シタル籐ト籠城諸君鹿兒島陣
中トシタメタル書面ヲ持チ下馬橋際ニ来リ
右ノ籐ヲ建テ遁レ歸ラントスル際下馬橋口ノ
臺兵之レヲ認メ捕縛ノ上城中ニ拘留セリ
午後第六時京町佛嚴寺兵燹^{へいせん}ニ罹リ消失セリ
三月十三日 午前第七時コロヨリ小雨暫時

ニシテ晴ル

昨十二日午後第五時過ヨリ川路池端ノ両警部
所部ノ巡查二十名計ツヽヲ引率シ段山屯集ノ
賊兵ヲ襲ヒ引続臺兵及ヒ渡邊警部所部ノ巡查
始メ進撃シ小銃ヲ以テ迫リ徹霄てっしょう 絶間ナク発射
セリ我第一大隊第一中隊ノ兵八人終ニ賊營ニ
破リ入タリ **註** コノ際賊兵等ハ井芹

川ノ土居ニ據リ應撃セシ處我カ小倉分營ノ兵
及ヒ東京巡查等側面ヨリ之レヲ撃チ烈シク迫
リ進メリ於是ヤ賊兵等最早敵スル不能吃驚狼
狽或ハ兵器ヲ抛棄シ死尸ヲ荷擔シ大二敗走セ
リ官軍勝ニ乗シテ北クルヲ逐ヒ大小銃ヲ発ス
ル實ニ迅雨ノ注クカ如ク午後第一時ヨリ三時

迄ノ間最モ甚シク終ニ賊營ヲ焼キ臺場ヲ奪ヒ
午後第四時ニ至リ尽ク逐ヒ拂ヒ段山全ク我カ
防禦線内トセリ

コノ戦ヒヤ開戦以来今日迄ノ一大激戦ニシテ
實ニ愉快ノ大勝利ヲ得賊兵四名ヲ生獲シ小銃
二百有余弾薬千有餘個其他刀劍等ヲ分捕シタ
リ其死傷ハ詳カニ難シト雖現ニ死尸ノ戦跡ニ
斃^{たおれ}タルモノ概計百二十余名アリ而シテ我カ
官兵ノ死傷九十余名ナリ内警視局出張ノ分即
死十九人 傷六十九人

註

註

ニテ鎮臺兵ハ士官四名即死セリ其他ノ死
傷ハ未タ詳カナラス斃^{へいし}死シタル賊兵木札ニ薩
州村尾真二郎裏ニ五ノ八番小隊ト書スルヲ付

ケタルモノ左ノ書翰ヲ懷中セリ

去ル二月十七日廳下発程伊集院町ニ晝休市
来港町ニ一泊同十八日川向田町ニ晝休阿久
根ニ一泊同十九日野田麓ニ晝休出水麓町ニ
一泊同二十日米ノ津ヨリ乗船ニテ同二十一
日熊本縣下柘橋ニ着船此夜直ニ未明迄ニ熊
本城ニ達同廿二日終日戦争同二十三日ヨリ
同廿六日迄城中ノ敵兵不出之カ為メニ柵外
ヲ守ル同二十七日高瀬ト申村ニテ戦争味方
ノ兵少シテ甚タ苦戦セリ同廿八日復植木町
ト申野町ニ退陣ス木ノ葉ト申所ニ進軍致シ
候處味方ノ兵少シテ苦戦仕ニ付退テ田原村
ニ宿陣ス同四日ヨリ同六日迄不止戦同七日

切込ニテ全ク勝利ヲ得タリ首ヲ得ル事八十
九ナリ同八日熊本二本木町ト申處ニ帰陣ス
同九日モ止休前件ノ通拙報仕候事拝

再陳自分ニモ大元氣ニテ勤軍仕候間御家
内様ニモ御壯健候哉自分ニハ御氣仕申間

敷候事

丑三月九日

右ノ生捕ヲ糾弾シ西郷桐野篠原等出張シタル
ヤ否ヲ尋ルニ川尻ニテ言ヲ交ヘスト雖共見受
ケタル旨白状シ且ツ篠原ハ高瀬ニテ戦争ノ節
死シ其他城外四方屯集ノ人数ハ八小隊計ナル
旨ヲモ白状シタリト

金峯山ノ裏面ニ方リ小銃の響終夜絶間ナク烈

シク聞ヘリ

時々探撃常ノ如シ

三月十四日

午前第十時廿分ヨリ賊兵発砲ヲ始メリ而シテ

臺兵之レニ應セス

午後五時頃賊兵頻リニ発砲臺兵應砲数撃セリ

夕刻ヨリ北方ニ当リ小銃ノ響烈シク聞ヘ終夜

聊カ絶間ナシ

時々探撃常ノ如シ

三月十五日

夜来北方ノ銃聲依然絶間ナク其間時々大砲ノ

聲アリ正午十二時過ニ至リテ止ム

午前第五時過ヨリ本妙寺出火セリコレ鎮臺ヨ

リノ焼キ拂ヒニ罹ルモノナリト

六等属森下武重鎮臺ヨリノ聚糧立會トシテ出
張シタリコノ日各所ニテ米麥豆蕎麦合百五十
俵ヲ取り帰レリ

臺兵及ヒ賊兵互ヒニ時々警備砲ヲ発セリ

三月十六日

暁天ヨリ午前第七時過ニ至ルマテ北方ニ当り
亦タ銃聲アリ

午前第七時前ヨリ賊兵発砲ヲ始メ終日時々発
射シ臺兵之ヲ應撃セリ

午後第二時ヨリ六等属森下武重聚糧立合トシ
テ例ノ如ク出張シ米粟ヲ合セ百三十俵餘ヲ取
り帰レリ

互ニ警備砲ヲ発スル常ノ如シ

三月十七日

昨夜半頃ヨリ北方ニ当リ銃聲不絶相聞ヘ夕刻
ニ至リ一層烈シク終ニ徹宵止マス而シテ其聲
響前日ヨリ稍近キヲ覺ヘリ

花岡山長六橋傍等ハ敗兵時々二三発宛大小銃
ヲ発シ臺兵亦之ヲ應撃セリ

夜半互ヒニ警備砲ヲ発スル常ノ如シ

三月十八日

城北ノ銃聲猶不絶聞ヘ夜ニ至リ亦ヤヽ近ク或
ハ云フ小萩野邊ナラント其間砲聲ヲ雜まじえしゆうしやうヘ終宵
マテ絶間ナシ

賊兵時々大小銃ヲ発射シ臺兵之レヲ應撃セリ

其他時々警備砲ヲ発スル等常ノ如シ

三月十九日

午前第十時過マテ城北ノ銃聲猶ホ聞ヘ午後第三時頃ヨリ砲聲最モ近ク聞ヘリ暫時ニシテ止ム

午後第三時三十分ヨリ花岡山長六橋屯集ノ賊兵ト砲戦アリ暫時ニシテ止ム其他互ヒニ警備砲ヲ発スル常ノ如シ

三月二十二日ヨリ本日マテ我鎮臺兵及ヒ警備局出張警部巡查ノ死傷左ノ如シ

一死 百二十人

内

上士官以上 拾人

警部

六人

下士以下

七十二人

巡查

三十二人

一傷

三百四十九人

内

士官以上

九人

警部

七人

下士以下

二百四十七人

巡查

八十五人

死傷惣計

四百六十九名

三月二十日

午前第七時三十分城北ノ砲聲亦聞へ暫時ニシ

テ止ム

別條ノ戦ナシ賊兵時々一二発宛銃撃シ我兵亦
時々探撃スル耳

夕刻ヨリ城北ノ銃聲折節相聞夜半過ヨリ翌日
午前第四時迄植木地方ニ當リ二ヶ處盛ンニ火
ノ手上レリト

三月廿一日 終日ばいふう霾風 二三丁ノ先ヲ辨セス

曉来城北ノ銃聲尚又聞へ暫クシテ止ミ又夕刻
ニ至テ聞へ午後第十一時ヨリ同第十二時マテ
最モ烈シク聞へリ

別條ノ戦ヒナシ時々互ニ警備砲ヲ発射スル耳
午後第六時ヨリ雇古城貞ヲシテ南関仮廳へ消
息ヲ通シ且ツ東西京へ形情報知方等ノ為出城

セシム

三月廿二日

午前第十一時三十分ヨリ賊兵頻リニ発砲我兵
應セス正午第十二時ニ至テ止ム其後我兵時々
発砲賊亦同様発砲セリ

黄昏ニ至リ賊各所ヨリ銃撃我兵亦應シテ銃撃
セリ其他時々警備砲ヲ発射スル常ノ如シ

午後第一時過城北ノ銃聲復聞ヘリ

三月二十三日 夜来雨天午前八時ヨリ晴

未明ヨリ賊兵本營ヘ向ケ発砲シ午前第十一時
ニシテ止ム我兵應セス

同上未明ヨリ城北ノ銃聲聞ヘリ午前第九時頃

向坂地方ニテ二ヶ所えんえん炎烟 高ク上レリ同第十一

時頃ニ至リ銃聲止ム

去ル廿日出城シタル巡查中村匡行今朝六時帰
營ス其探偵左ノ如シ

一植木口ノ官軍ハ植木ヲ放火シテ向坂ニ押
シ来リ居ルヨシ

一本月十九日ノ夜高瀬口ノ官軍勝利ヲ得テ
出羽マテ来ル敗賊ハ野出村ニ屯ス

註¹⁾

一熊本土族大田黒岩太ハ當縣士族二百名ヲ
募リ鶴崎口ノ官軍ニ應シ順々ニ重峠ヲ来
ルヨシ

一海軍艦隊八艘長崎河内ノ海岸ニ繫船時々
砲撃シ或ハ端船ヲ漕キ陸ニ近クト雖賊ヨ

リ海岸ヲ拒キ上陸難キヨシ

午後第二時頃飯田山邊ニ当テ銃聲アリ

午後第三時頃賊兵頻リニ銃撃シ折節発砲ヲモ

ナセリ我カ兵之レニ應ス

午後第六時頃城北ニ当リ亦銃聲アリ

午後第七時過雁回山ノ後口ニ当リニケ處盛ン

ニ火ノ手ノ上ルヲ見ル

警備ノ発銃常ノ如シ

三月廿四日 夜半ヨリ雨天未明ヨリ晴

午前第九時ヨリ賊兵頻リニ発砲我兵應セス

午後第一時三十分我兵発砲賊亦発砲セリ

午前第十時頃ヨリ城北ニ銃聲アリ終日終夜絶

ヘス其響愈烈シク愈近シ

午後第一時頃ヨリ鹿子木地方ニ當リ炎烟上レ
リ

警備砲常ノ如シ

三月廿五日

午前第七時頃花岡山ヨリ洋学校砲臺ニ向ヒ大
砲一発ヲ放テリ

城北ノ銃聲夜来猶絶間ナシ午後第三時頃ニ至
テ止ム

午前第八時過我兵砲発賊亦應撃ス

午後第一時過ヨリ賊亦発砲我兵之レニ應ス同

第六時ニ至テ止ム

午後第七時三十分ヨリ城北亦銃聲アリ

警備銃常ノ如シ

三月廿六日 午後第五時ヨリ雨

午前第八時過ヨリ賊発砲我兵之レニ應ス

午前第十時頃宇土松橋ノ地方ニ当リ砲聲アリ

而シテ賊兵一小隊程右地方へ向ケ出立ノ模様

ヲ見ル

午後第一時我兵発砲賊應セス同第二時過我兵

亦発砲之レニ應ス

午後第七時頃我兵発砲賊之レニ應ス

右同時頃ヨリ城北ノ銃聲烈シク聞へ終宵止マ

ス

午後第六時仕丁坂田吉郎ヲシテ東来ノ官軍且

ツ仮廳等へ消息ヲ通スル為メ出城セシメタリ

開戦以来本日迄賊ノ銃器ヲ分捕スル事二百九

十八挺ナリト

警備銃常ノ如シ

三月廿七日

午前第五時臺兵巡查一大隊程三手ニ分レ寺原

京町牧崎ノ賊ヲ進撃ス賊胸壁ニ據^よリテ拒撃ス

我カ三道ノ兵大小銃ヲ以テ呐喊並ヒ進ミ城上

ヨリハ四方ニ向フテ発砲シ山川為メニ震ヘリ

註[△]

賊等頗ル強拒

スト雖我カ兵銳意勇進スルニ依リ其胸壁ヲ守

ル能ハス之レヲ棄テ次第ニ却退シ各處叢藪^{そうそう}ノ

中等ニ據リテ狙撃ス我兵之ヲ逐ヒ其胸壁ヲ毀^{こぼ}

チ京町寺原千反畑等ノ人家ニ火ス炎烟亦夕天

ヲ焦セリ終ニ進テ出京町マテ至リ午後第七時

戦始メテ休メ戍兵二中隊ヲ京町ニ布置シテ帰
營セリ此戦ヒヤ討チ取者数名夫卒三名ヲ生獲
シ弾薬二千餘ヲ分捕セリ而シテ我カ兵ノ死傷
九十余人ナリト

生獲ノ夫卒糾問セシ處其口供左ノ如シ

熊本県下第九大區十小區

山崎村農八藏長男

小西十太郎

十八年

一自分義昨二十六日熊本出町へ臺場築造ノ人
夫トシテ罷出候様村用掛村井仁兵衛ヨリ被
申付同村ヨリ五十人四ツ時頃発足夜通シニ
テ當地へ着シ未夕築造不致内京町ニテ合戦

相始リ同行ノ者ハ何レヘカ散乱シ自分ハ藪
中へ潜匿罷在候處御捕相成候

一官軍勢ハ廿日頃ニ黒船ヨリ八代へ上リ時々
合戦アリト云フ風聞

一日失念宮ノ原ト云フ村ニテ合戦アリト云勝
敗ノ事ハ不承候

一七日程前ニ鹿児島勢日奈久ノ鳩山ト云フ處
ニテ百二十人位臺場ヲ築キ候處官軍勢船ヨ
リ大砲ヲ打掛ケ鹿児島勢敗走シテ山崎村ニ
来リ夫ヨリ川尻へ行ト云話ニ有之候處俄ニ
小川ト云フ村へ屯集ニ相成

一昨廿六日ハ砂川ト云大川ヲ隔テ大合戦アリ
鹿児島勢大敗シ或ハ山或ハ田ノ中ヲ逃走候

テ昨夜サバカミへ臺場ヲ築キ候處今日官軍
海東村ヨリ進ミ来リテ臺場ノ裏ニ出テ鹿兒
島勢大敗ニナリタリトヲハタケ村人夫今日
昼過キ當地へ来リシ者ヨリ承ル

一鹿兒島勢ノ大将ハ西郷ト云フ人ニテ川尻ノ
本營ニ在ラレ候由

一人夫ノ賃錢ハ村用聞ヨリ一人ニ付貳百目ツ
ゝ出ルト云自身ハ主人ヨリ五十目貰受ケ候
一植木ノ方鹿兒島勢ハ死傷多シ最早半分ニナ
リタリト云風聞

右ノ通相違不申上候以上

十年三月廿七日

晚来ヨリ城北ノ銃聲烈シク聞へ終宵止マス

警備銃常ノ如シ

三月二十八日

午前第六時過ヨリ賊発砲我兵應セス

城北ノ銃聲夜来間断ナク聞へ午前第九時過ニ

至リテ止ム

午前第一時頃賊花岡山ヨリ発砲我兵之レニ應

ス

午後第二時過花岡山及ヒ長六橋畔ノ賊兵ト暫

時砲戦セリ

晚来城北ノ銃聲亦夕起リ徹宵絶へス

警備銃常ノ如シ

三月二十九日

午前八時頃ヨリ賊時々発砲我カ兵應セス

城北夜来ノ銃聲午前第八時過ニ至テ止ム

午後第二時我カ兵発砲賊之レニ應ス

日暮少々城北ノ銃聲聞ヘリ

坪井川ノ下ヲ堰キ留メタル模様ニテ両三日前

ヨリ水滞リテ流レス満川漲溢ス

賊兵ノ為メ当縣士族田尻傳九郎六所宮旧神官

平坪志摩守ハ熊本近傍ノ嚮導カウヂウヲナシ臼木某ハ

註 植木近傍ノ嚮導ヲナシ居ル由

午前第六時頃ヨリ花岡山及ヒ長六橋畔ノ賊兵

発砲我カ兵之レニ應ス同第八時過花岡山ヨリ

発ツ處ノ破烈丸縣廳四階ノ土蔵ニ中リ第四階

ノ上ニテ着発シ火既ニ家根裏ニ燃ヘ付カント

スル際縣官ハ勿論其他福原大尉所部ノ歩兵及

ヒ高山 尉所部ノ砲兵等馳セ集リ消防尽力ス
ルニ依リ書類少々焼毀スルノミニテ消滅セリ
当縣第一大區八小區柳川町借宅福島丈平ナル
者官軍ノ命ヲ受ケ植木谷水ヨリ昨二十八日朝
出立同日午後第四時当鎮臺へ着シタリ其申出
左ノ如シ

一 本月二十五日田原坂ニテ賊大敗ス

一 官軍ハ向坂並木留ニ戦フ

一 山鹿隈府ノ賊ハ大津ニ退キ官軍之レヲ追撃

ス

一 賊ハ二千人位ト云フ

一 官軍賊ノ大砲七門ヲ奪ヒ取レリト

一 七里ノ間官軍戦線ヲ張レリト

一五日ノ内ニハ官軍熊本ニ入ルト云フ

警備銃常ノ如シ

三月三十日 夜来雨天

午前第九時前ヨリ第十一時頃迄松橋地方ニ當
リ大小銃ノ聲アリ

午後第一時及ヒ第五時頃賊少々発砲我カ兵應
セス

晚来城北ノ銃聲聞へ徹宵止マス

警備銃如常而シテ賊亦時々銃撃セリ

三月三十一日 猶雨天午後ヨリ晴

午前第五時及ヒ同第十時頃賊少々発砲我カ兵

総へテ應セス

城北ノ銃聲未明ニ至テ止ム

午後第三時花岡山ノ賊発砲我カ兵之レニ應ス
日暮ヨリ城北ノ銃聲聞へ通宵止マス
警備銃常ノ如シ

四月一日

午前第九時前及ヒ第十時頃賊少々発砲我カ兵
應セス

城北ノ銃聲正午十二時過ニ至テ止ム

午後第一時頃木苗地方ニ火ノ手ノ上ルヲ見

午後第四時頃及ヒ同第六時ヨリ七時過マテ賊

発砲セリ我カ兵総へテ應セス唯時々各所ヲ探

撃スル常ノ如シ

四月二日 暁来雨天

午前第五時前宇土地方ニテ砲撃アリ

午前第十時前及同時半長六橋ノ賊少々発砲我
カ兵應セス

晚来城北ノ銃聲聞へ夜半後ニ至テ止ム

警備銃常ノ如シ

四月三日 天晴

午前第九時及ヒ同第十時頃長六橋ノ賊少々発

砲我カ兵應セス

午前第十一時過ヨリ城北ニ砲撃アリ

同時賊寺原京町ノ二ヶ所へ火ヲ掛ケ亦数十戸

消失ノ模様ナリ

午後第一時前賊発砲我カ兵之レニ應ス

午後第三時過ヨリ四時過迄花岡山長六橋ノ賊

発砲我カ兵之レニ應ス

午後第六時頃甲佐地方ニ当リ盛ンニ火ノ手ノ
上ルヲ見ル

午後第六時過及ヒ同第八時過賊亦発砲我カ兵
應セス

午後第八時頃ヨリ城北ノ銃聲聞ヘリ
我カ兵胸壁ヨリ時々各所ノ賊ヲ銃撃シ賊亦各
所ヨリ時々銃撃セリ

四月四日

午前第六時頃ヨリ午後第七時頃迄ノ間花岡山
及ヒ長六橋ノ賊連々発砲スル事凡ソ三四十発
内縣廳内ニ着発スル者七八発

註^{vii}

我カ兵午前第十一時頃発砲之レニ

應セリ

午後第七時頃ヨリ城北ノ銃聲頗ル盛ンニ聞ヘ
リ

我カ兵胸壁ヨリ時々銃撃賊亦各處ヨリ時々銃
撃セリ

鎮臺ノ夫卒庄左エ門云フ

註

米田氏ノ旧臣中林駒八真鍋新十郎井上前彦

石山平三郎外一名ハ賊ニ輿シ同旧臣二三百人

程ハ中立シ八ノ久保ニ集合セル由ナリト

午後第六時雇熊野五藏ヲシテ高瀬ニ在ル官軍
及ヒ假廳へ消息ヲ通スル為メ出城セシメタリ

四月五日

午後第十二時過マテ城北ノ銃聲猶聞ヘリ

花岡山長六橋ノ賊等午前第八時頃ヨリ午後第

八時過マテ時々ニ発砲スル事凡ソ三十発内四
発縣廳内ニテ着発シ午後第八時過縣廳屋根裏
へ火移リ已ニ燃へ付カントスル際縣官並ニ臺
兵尽力シ遂ニ消シ留メタリ我カ兵亦數門発砲
シ應シタリ

午後第七時頃ヨリ城北ノ銃聲聞へ夜半過ニ至
テ止ム

我カ兵胸壁ヨリ時々各處ノ賊ヲ銃撃シ賊亦各
所ヨリ銃撃セリ

四月六日

曉来城北ニ銃聲アリ

花岡山長六橋ノ賊午前第六時頃ヨリ午後第七
時過マテ時々ニ発砲スル事凡ソ三十発餘内大

半縣廳内ニテ着発シ縣廳為メニ焼ケ出サント
スル事二度ニ及ヘリ然レ共縣官及ヒ臺兵速力
ニ消防尽力シ皆ナ之レヲ消シ留タリ我カ兵應
セス

我カ兵胸壁ヨリ時々各所ノ賊ヲ銃撃シ賊亦タ
時々銃撃セリ

四月七日 暁来雨天

午前第五時頃ヨリ城南ニ当リ盛ンニ大小銃ノ
聲アリ終日止マス

午前第七時頃城北亦タ銃聲アリ

午前第八時我カ兵発砲賊之レニ應ス

同第九時三十分我カ兵亦発砲賊之レニ應シ

午後第七時頃迄ノ間凡ソ二十発餘時々ニ発砲

セリ

警備銃常ノ如シ

四月八日

籠城殆ント五十日及ヒ糧食尚十餘日分ヲ剩ス
ト雖モ南北ノ官軍進入ノ期終ニ難計ヲ以テ我

カ第一大隊註ヲシテ賊ノ防禦線ヲ突貫シ

南方ノ官軍ニ合セシメ迅速進入ヲ促カサント

シ午前第四時安政橋口ニ向ヒ臺兵半大隊餘巡

査二小隊ヲシテ進撃ス 註 第

一大隊ハ敵ノ間ヲ窺ヒ超過セントシ之レニ尾

従スコノ時天未夕明ケス衆軍枚ヲ御三橋際ニ

迫ル巡查五名斥候トシテ先ツ進ム賊橋頭ニ松

明ヲ焚キ哨兵ヲ置キ巡查ニ向ヒ来タカト云フ

依テ氣遣ヒナシト答ヘ退テ之ヲ我カ軍ニ報ス
我カ軍呐喊シテ橋頭ヲ突キ賊数名ヲ斬リ且ツ
橋上橋下ノ臺場ヲ一齊ニ突貫ス賊狼狽銃器彈
藥ヲ拋棄シテ走ルアリ或ハ刀ヲ揮テ抗がんスル者
アリ此間一大隊ハ駈ケ足ヲ以テ橋ヲ過キ一二
ノ抗がんスル者アルモ皆蹴テ之レヲ過キ士官等モ
手カラ斬テ過クルアリト云フ遂ニ一大隊総ヘ
テ一人ノ死傷ナク通過スルヲ得砂取ニ至リ相
圖ノ放火セリ
始メ諸臺場ニ突進スルノ兵賊ノ北ルヲ逐ヒ烈
シク銃撃シ数名ノ巡查進ンテ川ヲ渡リ九品寺
村ニ至リ土民ノ家ニ入り蓄糧ノ有無ヲ問フニ
九品寺村元郷蔵ニ糧米数百俵アリト云フ之ヲ

発クニ果シテ其言ノ如シ且ツ九品寺村賊ノ炊
事場ニモ亦白米数百俵アリ之ヲ本營ニ報ス本
營速カニ聚糧ヲ命シ會計部ヲ出シ工砲兵ノ馬
数疋ヲ以テ聚糧スル事千俵餘臺兵及ヒ巡查ハ
聚糧中安政橋口ヲ中眞トシ左右ニ翼ヲ張り右
翼ハ高田原通丁山崎ニ進ミ左翼ハ井川淵廣丁
明午橋建町ニ進ム川向ハ正面九品寺村及ヒ新
屋敷ニ進ンテ安政橋近傍及ヒ新屋敷ニ火ス聚
糧尽ク終リ徐ニ兵ヲ退ケ午後第四時過引上ケ
タリコノ日我カ軍城上ヨリモ烈シク発砲シ賊
亦花岡山長六橋等ヨリ発砲シ天地為メニ震動
セリ賊ノ死傷数多ナリト雖其数ヲ詳ニセス其
他得ル處小銃凡ソ百挺計弾薬三千発計生擒四

名ナリ我カ兵死傷凡ソ八十名計内死スル者三十名計ナリ抑籠城以来進撃スル事四度坪井段山京町及ヒ本日トス而シテ我カ軍得ル處多クシテ損スル處少ナク大ニ賊膽ヲ落破シ大快戦ト称スヘキハ本日ヲ以テ第一トス

井川淵邊ニ潜伏スル人民数名アリ砲撃ニ驚キ皆散乱逃避スト雖事火急ニ起ルニヨリ左ノ者共等避得スシテ狼狽奔走セシニ付我カ兵城中へ連レ帰り一應取糾嫌疑無之ニヨリ一人ニ付

金一円ヲ給シ

註

護兵ヲ附ケ城外

へ送り出セリ然ルニコノ時戦ヒ未タ止マス彈丸織ルカ如ク終ニ出ルヲ得ス引返シ鎮臺ニ留メ置ケリ

当縣四等巡查当縣士族

松尾泰々

泰々父

同安太

同人

母

同人

妹

同人甥

松尾藤一

中間小路平民

小山卯平次

同人母

同人妻

高瀬町吉平娘

登壽

同人女

ハツ

同人長男

末彦

阿波國藍屋

松永卯次郎

当縣士族八郎父隱居

西村定吉

当縣士族樹下一平元家来

永田善助

同 卯太郎

白川町平民

山田耕節

新屋敷

白石吉平

以上

右松尾泰々云フ三澤七等属生源寺十等警部ハ
賊ノ為メ惨殺セラレ先キニ出城セシメタル仕
丁坂田吉郎ハ賊ノ捕トナリ賊営ヘ引カレ雇熊
野五蔵モ亦タ賊ノ縛トナリ親類預ケニナリタ
ル由ヲ聞ケリト 註 且ツ泰々傳寫
シ處持スル處ノ書面左ノ如シ

曩さキニ鹿兒島ノ暴徒数百人哨集シ去ル一月

三十一日夜ヨリ二月二日ニ至ル迄連夜其縣
下ニ有之海陸軍ノ彈藥ヲ掠奪同縣下人心穩
カナラス於是河村海軍大輔及ヒ林内務小輔
ヲ差遣シ其情状ヲ訊問セシメントスルニ暴
徒等兵器ヲ以テシ剩あまつさへ其乗ル處ノ官船ヲモ
奪ハントシタリ依テ空シク鹿兒島灣戸ヨリ
船ヲ廻セリ

天皇尚或ハ其覺悟セン事ヲ欲ス從二位島津
久光父子西郷隆盛等ハ深ク国家ノ為メニ力
ヲ尽ス者ナルヲ以テ此時ニ際シ身ヲ投テ以
テ人心ヲ鎮撫セシ事ヲ思フ勅使ヲ差遣セラ
レントスルニ豈圖ランヤ是ヨリ先キ彼等自
ラ負スルニ無根ノ偽名ヲ以テ強テ名義ヲ設

ヶ檄ヲ全國ニ傳へ恣ニ兵器ヲ携帯シ國境ヲ
鎮シ已ニシテ同縣下ニ乱入シ官兵ニ抗敵がんできシ
其兇威ヲ逞セントス

天皇慈仁固ヨリ無罪ノ生靈ニシテ鋒鏑ほうてきノ禍
ニ罹ラシムルヲ欲セスト雖モ如斯形勢止ム

ヲ得サルニ付遂ニ本月十九日ヲ以テ征討ノ
令ヲ発シ予ヲ以テ海陸軍之兵ヲ進退スルヲ
許サレ尋テ隆盛以下ノ官位ヲ剥脱セラレタ
リ乃チ天兵ヲ挙テ急ニ大旗ヲ西シ速ニ其巨

魁きょうしやうヲ殲シ脅従きょうしやうハ治スル事ナク以テ

天皇ノ慈仁蒼生そうせいヲ愛育スル○ケツ覆載ふうさいスヘキ

ヲ知ラシメント茲ニ今本營ヲ筑前州ニ置キ

兵ヲ勤シ馬ニ秣ヲノ初メニ当リ王師おうしヲ動ス

所以ノ理詳説スル事如斯夫海内臣民タル者
大義名分之有ル處ヲ辨知シ確然自守決シテ
其方向ヲ誤ル可カラス苟モ反人ノ為メこわく蠱惑いやしくも
セラルアラハナンソ悔ル共及フ無キノミ

明治十年二月二十八日

征討総督二品親王有栖川熾仁

左ノ通安己橋及ヒ明午橋邊三ヶ所へ揭示セリ
今般鹿兒島縣賊徒御征討ニ付兼テ熊本市街
近傍人民ハ立退候様相達置候處今日迄モ白
川筋其他近村ニ罷在候者不少趣右ハ萬一不
慮ノ患害ニ罹リ候テハ憫然ノ次第ニ付早々
何方へ歟立退可申尤目下飢饉ニ迫リ候者ハ
區戸長へ可申出候且当縣士民ノ内賊徒ニ輿

シ候者有之趣相聞以ノ外ノ事ニ候右御征討
ニ付テハ 有栖川宮様総督トシテ御出發不
日平定可致候條士民一般大儀ヲ辨へ決シテ
方向ヲ誤ラサル様可致事

賊兵處持シタル書面ノ寫左ニ

今般陸軍大将西郷隆盛外二名上京ノ次第ハ
兼テ御届申上置候通ニテ既ニ去ル十五日当
地発程イタシ候尤通行ニ付テハ嚮ニ各縣各
鎮臺へ通知致置候故熊本縣ニ於テ未前廳家
ヲ焼拂剩へ通行筋川尻迄押出砲聲ニ及候旨
追々報知在之然ル處彼ノ地へ去ル二十日当
縣征討ノ命被仰出候哉ニ相聞へ何トモ恐入
乍恐西郷大将儀ハ先般辞表指上以來於縣下

嚴肅ニ謹慎致シ居且数万ノ士族自費ヲ以テ
学校ヲ開キ忠孝ヲ重ンシ諸生ヲ教導シ第一
方向ヲ誤ラサル様勤メテ説諭シ已ニ佐賀暴
動引續熊本山口同断ノ節縣内安静終ニ一毛
ヲ損セサルハ全國ニ明瞭成事ニ候處何卒ノ
嫌疑アツテ大久保利通川路利良私怨ヲ以テ
スルヤ容易ナラサル國憲ヲ犯シ暗殺ノ内諭
ヲ下シ候義實ニ海外ニ對シ乍恐政府ノ御失
体ト奉存候尤随行ノ者共銃器帶刀ヲ以テ途
中保護致シ候義ハ暗殺ヲ命セラルゝ程ノ者
無異儀上京不相遂ハ勿論ノ事ニテ不得止下
官モ聞届置候就テハ弥当縣征討被仰出候上
ハ縣官且士民ニ至ル迄御征討ノ御趣意ニ被

為在候哉夫々無名ニ耻はじヲ蒙ラセナハ鹿兒島
人民ト雖皆王民ニシテ政府ノ命令ヲ不奉者
一夫モ無之候得共何分士民挙テ動揺ニ至候
間至急御勅諭被成被下度尤西郷大将随行モ
貫徹候様御處分被成下度此段忠誠ヲ以テ奉
願候也

明治十年三月三日 鹿兒島縣令大山綱良

征討總督有栖川殿

別紙達書ノ義ハ至急ヲ要スル義ニ付速カニ
揭示且ツ区内人民一モ無洩至急可揭示候此
段相達候也

十年三月十七日 宮崎支廳

日向國

今般勅使当縣へ臨降逆徒征討被仰出候ニ付
テハ右黨類ノ者共潜力ニ各區往来致候モ難
計候ニ付一層取締嚴重申付候條萬一類似ノ
者有之候ハ、取糾ノ上拘引致シ姓名住處等
細詳取調至急可届出此旨相達候事

十年三月十日 大山綱良代理

田 畑 常 秋

同盟簿ト表書シタル帖簿ノ寫

軍令

一 總軍長之命令ヲ守リ誠忠ヲ拔出可申事
一 同勢互ニ和順ヲ本トシ恣ニ私論ヲ立候義
不相成事

一陣中並行軍中大酒一切不相成事

一 陣軍並行軍中人民ノ耕作並商業ヲ妨害義
不相成事

一 同勢沈勇ヲ本トシ浮薄輕騷ノ振舞不相成
事

一 陣中並行軍中人民ノ畜類ヲ殺害ノ義不相
成事

一 淫欲ヲ禁シ放蕩ノ振舞有之間敷事

一 人民ノ財寶ヲ奪取候ノ處業不相成事

一 進退其度ヲ得無謀ノ勇有之間敷事

一 火急ノ出勢ニテ金穀無数ニ付省略ヲ本ト

スヘキ事

右ノ條々相背ニ於テハ嚴ニ軍律ニ行フヘキ
者也

明治十年二月

總軍長

坂田諸潔

少隊長兼參謀

山下謙藏

日高義正

半大隊兼參謀

田中東穂

分大隊兼參謀

古屋於菟七

押伍

松田章

財津猛

山 鈴 田
内 木 中
武 重
彦 弘 登

軍
監
兼
書
記

隊
外
士
官

權 河
藤 野
庄 良
三 太
郎 郎

旗
隊

日 水 日 木 田
高 元 高 島 中
義 令 六 賴 長
勇 造 郎 面 久

河野三艸
田中鷺雄
城重利
吉松卓蔵

器械方

水元重試
神戸政次
清水清平
加藤禎一

会計方

隅田原良次郎

軍長付

野邊勘縣由

醫師

松田準一

會計方附属

岩本金造

山崎朝之十

兵士

一番分隊

津田涼

井手謙平

鍋倉民造

河野勝太郎

安田省三

山下敬一郎

松	河	内	井	深	城	坂	河	清	鈴	土	野	岩
田	野	田	手	江		田	野	水	木	持	邊	村
盛	平	和	唯	専	庄	民	麓		重	信	菟	卓
吉	七	太	吉	一	三	次	水	淡	治	夫	毛	一
		郎		郎	郎	郎						

小	大	土	前	日	内	谷	坂	栞	木	河	二番分隊	坂
城	山	持	田	高	野	口	田	山	島	野		田
早	弥	志	健	真	関	鎮	総	米	忠			
治	藤	津	吉	島	太	巳	次	吉	太	通		貞
	次	江			郎		郎		郎			

三番分隊

大	松	島	木	隅	大	深	木	井	福	財	松
坪	田	田	島	田	坪	江	島	手	田	津	本
孝	貞	豊	健	寛		虎	荘	彦	重	力	民
行	幹	吉	一	一	穀	蔵	作	次郎	工門	尾	五郎

木	清	内	税	松	八	川	内	山	荒	永	山	清
島	水	田	田	本	源	寄	川	寄	川	友	下	水
猪	武	周	廣	豊	貞	十	芳	平		貞	一	大
太	四	太	吉	太	一	次	太	工	涉	平	郎	四
郎	郎	郎		郎		郎	郎	門				郎

松	鈴	日	日	堀	堀	諫	山	四 番 分 隊	財	安	吉	轟
田	木	高	高	江	口	山	内		津	田	松	
	重		荒	直	貞		虎		行		竹	周
潜	義	厚	太	太 郎	二	寬	十 郎		藏	守	二	之 助

人足

山	津	平	水	加	村	財	佐	川	岡	岡	岩
下	江	島	元	藤	田	津	藤	崎	本	留	下
次		弥	五	潜	又	治	祐	英	外	総	宮
吉		藤	郎	平	六	次	之	夫	六	太	門
郎	巖	次	太			郎	助			郎	

軍長附

彌助

次郎助

器械方付

手塚二吉

藤作

會計方付

河野今朝平

疋田儀次

軍監付

島左工門

隊付

泰造

傳次郎

今朝次郎

孫助

河野麓水日記ノ内寫

三月八日

本日黒木直左エ門至急当地出發為致就テハ
熊本攻城ニ付テハ兵隊モ四方へ手配リ昨日
ヨリ本日マテモ当岩村ノ内ニ永野原ト申處
ニテ戦争最中殊ニ諸道口々モ同断夫レ故兵
員不足ニ付願クハ本地強力ノ兵ヲ御組且貴
島宇太郎連中ヨリ一千位モ御指遣相成候テ
モ指支候間其義ニ於テハ山鹿滯陣私へ指向
至急御出兵御賢慮有之間敷哉一日ナリ共至

急御繰出被下候方幸ヒノ事ニ候間宜敷御依
頼申上候且彈薬ノ義ハ黒木巨細指令致居候
間彈薬乏ク候テハ兵力ニ相拍リ申候間昼夜
御製造ノ内輸送方御依頼申上候不取敢前件
両様至急御取計可被下候也

山鹿滞陣

桐野信作

大山格之助様

四月九日

午前第十時十分長六ノ賊少々発砲我力兵應セ
ス

昨日城中へ連帰リタル人民ノ内西村定吉以下
五名ハ希望ニヨリ出城セシメ其他婦女老幼等

ハ城中ニ居ルヲ欲スルニ付引受縣廳内ニ差置
ケリ

互ニ警備銃ヲ発スル常ノ如シ

四月十日 大雨

休戦午後第七時頃賊縣廳へ向ケ一門発砲スル
耳

城南ノ砲聲終日時々聞へリ

午後第七時頃ヨリ城北銃聲アリ同第十一時過
ヨリ最モ烈シク聞へリ

警備銃常ノ如シ

四月十一日 天晴

城北夜来ノ銃聲午前第九時ニ至テ止ム

午前第五時過及ヒ第六時過長六橋ノ賊発砲我

カ兵應セス

正午十二時過ヨリ午後第二時三十分迄賊発砲

我カ兵之二應ス

午後三時過ヨリ同六時過マテ賊亦発砲我兵應

セス

午後第六時過ヨリ城北銃聲アリ同第十一時頃

ニ至テ止ム

谷少将藤崎ニ於テ領脇ニ軽傷ヲ蒙レリ

警備銃ヲ発スル互ヒニ常ノ如シ

四月十二日

午前第四時過ヨリ同第八時過迄賊時々発砲我

カ兵應セス

未明ヨリ南北トモ大小銃ノ聲烈シク聞ヘリ午

後一時頃皆止ム

午前第八時過我力兵発砲賊之二應ス是ヨリ午

後第九時頃迄賊時々発砲セリ

去ル八日進撃ノ際我力兵捕縛セシ處ノ有馬清

口供左ノ如シ

新屋敷明午橋上四番丁

百九十一番地住士族源

内父隠居

有馬

清サヤカ

五十六

一自分義鹿兒島賊徒当地ニ乱入後一時大江村

関素通方ニ立退キ其後新屋敷邊ハ居住難相

成義モ無之故立帰居候去ル八日早朝俄力ニ

戦争有之娘并妾ヲ携へ再ヒ素通方ニ立退候
然ルニ自宅ニ金円ヲ忘置候ニ付立戻リ相搜
候得共遂ニ見当リ不申其内近隣砲聲盛ニ相
成倉卒ノ際無何心残り^ニ在ル獵聲並獵道具ヲ
所持門外ニ駈ケ出候處捕縛被致候尤モ其節
帶刀モ致居候

一養子源内註ハ竹部ニ住居シ養父ノ實子ニ
テ順養子ト為シ十餘年前家督ヲ譲リ自分ハ
別居致シ数年前ヨリ事故アリ常ニ往来致サ
ス彼ハ素千反畑連ニテ民権論ヲ主張シ自分
ト持論モ異ナリ或ハ賊徒ニ黨與スルヤモ難
計ト痛慮致シ居候

一自分實兄魚住勤ナル者嘗テ住江ト共ニ勤王

家ト称セラレ候然レ共住江トハ議論稍同シ
カラス住江ハ親ク王事ニ尽サントシ勤ハ旧
主ヲ奨勸シ之ヲシテ勤王セシメントス其子
弘河ハ自分等ト勤ノ議論ニ異ナラス勤同志
ノ者ハ目今甚タ僅少ニシテ末松勘エ門永井
金吾今村乙五郎等数人ニ過キス勤並弘河等
ハ決シテ賊ニ與スル者ニ非ラス

一 姪弘河懇意ノ武藤亦之助註ハ今般ノ変働
ノ件ニ付見込有之政府ニ献白ノ筋有之トテ
上京セント去二月中當地出發久住ニ到リ旅
行ナリ難シトテ立戻レリ弘河モ共ニ上京セ
ント企望セシカ全策立タスシテ果サス亦之
助モ賊ニ與スル者ニアラス

目今当縣士族ノ内賊ニ黨與スル者ハ敬神黨

註^{xv}

赤穂口連

註^{xvi}

通町連ノ内四分ノ一計

註^{xvii}

山崎

連註^{xviii}

及ヒ民権黨

註^{xix}

等承ル其総人員大約千人餘ノ由ナ

リ

一當縣士族ニテ其黨派ハ何タルヲ知ラサレ共

古賀作十郎

註^{xx}

安岡某

註^{xxi}

田中

政太郎

註^{xxii}

等ハ賊

ニ與セリ

中津大四郎モ賊ニ黨セルヤ立田口九品寺門

前ニ中津大四郎陣所ト標札ヲ掲ケ置ケリ

一生駒新太郎註^{xxiii}

ハ政府ヘ建白ノ筋アルト

テ上京セリ

一 賊城外東南ニ大砲ヲ配置スルハ慶徳堀長六
橋ノ上一門ツヽ及ヒ呉服町邊ニ一門下河原
ニ一門ナリ

一 目今白川堤ニ配賊スル賊兵ハ至テ手薄ク明
午橋ヨリ西岸寺川原迄三百名計同處ヨリ長
六橋迄百名計ナリ其他右同様少人数ノ由尤
以前ハ明午橋ヨリ長六橋ノ間ニ七八百名計
ナレ共過日八代邊ニ官軍上陸ニ相成賊援兵
ヲ出スヲ以テ如斯減少スル由ナリ

一 賊兵城外周圍並ニ立田口本ノマムニ本寺村 二有之モ
ノトモ総員大凡二千人位ノ由ナリ

一 賊兵洗馬川ようそくヲ壅塞スル處ハ細工五丁目ノ町

外レニテ土俵並花岡邊ノ石碑ヲ以テ塞ケリ

一長峯村ト申處ニ註^{xxiv}各所ヨリ賦シ取ル人夫

ヲ集メ置クトノ由ナリ

一三月十九日頃賊軍註^{xxv}敗北御馬下村

邊マテ退ク由承ル

一去ル七日朝處用有之中ノ瀨村註^{xxvi}

邊ニ参リタル節賊緑川ヲ南ニ渡リ官

軍ト榎津村註^{xxvii}ニテ激戦アリ緑川

ノ堤上ニテ之ヲ見ル稍アツテ官軍木原山ノ

方ニ退キ賊ト谷ヲ隔テ互ニ攻撃ノ様子ナリ

然ルニ何ノ方ニテ火ヲ縦ツヤ木原山ニ火起

リ夫レヨリ間モナク帰途ニ就キ途中ニ至レ

ハ砲聲轉シテ川尻川下方角ニ聞ヘ蓋シ大渡

ノ上ナラン

一 当縣士族大田黒某等ハ官軍ニ属スル由

一 前同断七日官軍大砲ヲ廻江川六弥太ノ渡場

南ニ据置ク由

一 木部ノ渡ハ註^{xxviii} 目今賊船橋ニセリ

一 去ル七日中ノ瀬ヨリ帰途田迎村ヲ通過スル

ニ 村内揭示ノ文アリ其文ノ略ニ云ク

今般鹿兒島縣ヨリ朝廷へ伺ノ筋有之当地通

行之處鎮臺ヨリ是非ヲ論セス砲発ニ及ヒ剩

へ府中市在ヲ焼死致シ候ニ付人民困窮云々

憫然ノ至ニ付鎮撫隊ヲ設ケ置候ニ付人民安

堵致シ各其職業ニ就キ候様若シ右様狼藉致

スモノ有之ニ於テハ当所ニ訴出へキモノ也

明治十年四月十一日

鎮撫隊分營

晚來城北少々銃聲アリ午後第十時頃止ム

警備銃常ノ如シ

四月十三日

午前第五時頃賊発砲我カ兵應セス

午前第十時頃賊亦発砲我カ兵之二應ス

午後第二時頃ヨリ第七時頃迄賊時々発砲我カ

兵應セス

警備銃ヲ発スル常ノ如シ

四月十四日 午後一時ヨリ小雨止ミ亦降ル

午前第五時前ヨリ同第十一時頃迄賊兵凡ソ四

十発餘連々砲撃セリ我カ兵少々発砲シテ應セ

リ

午前第六時前ヨリ城南大小銃ノ聲アリ而シテ
同第九時頃ヨリ川尻邊火ノ手上リ夫ヨリ銃聲
追々左へ廻リ最モ烈シク次第ニ近寄模様ナリ
我カ兵午前第十一時頃ヨリ頻リニ発砲賊絶へ
テ應セス川尻往還筋陸續人行ヲ見ル
午前第四時東京鎮臺宇都宮分營兵一大隊半計
ノ内少々着城セリコノ兵タル今朝隈府ヲ発シ
賊軍ヲ衝キ来タル者ニシテ長六橋畔及ヒ花岡
山等ノ賊等敢テ敵スル不能戦ハスシテ走ル官
兵長六橋畔ニ据置タル大砲ヲ奪ヒ徐々入城セ
リ是ニ於テカ熊本近傍東南ノ方面ハ賊兵全ク
退去シ二月十八日鎮臺非常ノ號砲ヲ発セシヨ
リ本日迄籠城スル事五十六日ニシテ本城南東

ノ圍ミヲ解ケリ而シテ城北ノ賊ハ未夕退散セ
ス

午後第四時過臺兵五百人計坪井京町邊ヲ進撃
シ午後九時頃引揚ケタリコノ時寺原邊亦夕数
戸消失セリ

大山縣令ハ長崎ニテ就縛東京市ヶ谷ニテ入牢
セル由

大山少将山田少将川路大警視

註
xix

等モ来リ居ラルト

城北ノ銃聲夜半頃ヨリ曉キ迄烈シク聞ヘリ

四月十五日 天晴

午前第十時過ヨリ東南ノ賊ヲ撃破シ来ル處ノ
團兵陸續入城セリ

午前第十一時我カ兵京町ノ賊ヲ砲撃ス

是ヨリ先キ賊兵坪井川尻細工町外レヲ堰キ留

メシヨリ川水日ニ留滞シ井芹川邊ノ人家ハ殆

ント軒ヲ浸スニ至リシ處鎮臺工兵ヲ出シ急ニ

之ヲ切落セリ

午後第一時頃内務大書記官品川弥二郎川尻ニ

赴ク八等属吉田較一随行セリ

午後第一時過ヨリ植木地方ニ当リ處々盛ンニ

火ノ手ノ起ルヲ見ル

午後第四時過植木口ヨリスルノ團兵城北口々

ノ賊兵ヲ撃破シ陸續入城セリ是ニ於テ四方ノ

圍ミ悉ク解ケ熊本城下全ク鎮定セリ

是ヨリ先キ城内ノ消息ヲ通スル為メ出城セシ

者七名ノ内八等属青山輝正仕丁坂田吉郎雇熊
野五蔵ノ三名ハ悉ク賊ノ為メ斬殺セラレ等外
一等出仕積惟治ハ未タ其生死ヲ知ラス其他ノ
三名ハ死ヲ免カレタリ而シテ僅カニ達スル事
ヲ得ル者ハ雇古城貞一名ナリト始メ籠城スル
者十七名内七名ハ追々出城シ終ニ今日マテ籠
城セシハ内務省出張大書記官品川弥二郎権令
富岡敬明一等属近藤幸止六等属森下武重七等
属持永義方八等属吉田較一九等属室伏聿仕丁
森吉哲外ニ従者二名ナリ

四月十六日

本日縣廳ヲ元ノ場處ニ開ケリ

開戦以来本日マテ城北ノ死傷七百七十人内死

二百六十人ナリ

鎮臺大小銃諸種彈丸元高並消耗現在員數

一 スナイトル 實包 註_{xxx}

一 エンピール 實包 註_{xxx}

一 山野四斤 榴彈 註_{xxx}

一 同 散彈 註_{xxx}

一 三十拇 榴彈 註_{xxx}

一 十二拇 榴彈 註_{xxx}

十	十	五	二	万	千	
一	二	百	千	〇	六	
筒	全	筒	全	九	全	四
七	七	千	百	九	千	八
百	百	三十	千	發	十	百
二	五	百	三	〇	七	現
十	十	五	筒	二	万	在
筒	筒	十	千	發	四	八
		七	筒		十	万
全	全	筒		全	九	千
五	六		全	十	万	百
百	百	全	六	六	五	發
六	二	八	千	万	千	
十	十	百	二	六	五	消
九	八	五	百	千	百	耗
筒	筒	十	〇	發	發	八
		七	七			十
全	全	筒	筒	全	八	
百	百			七	万	
五	二	全	全	十	五	